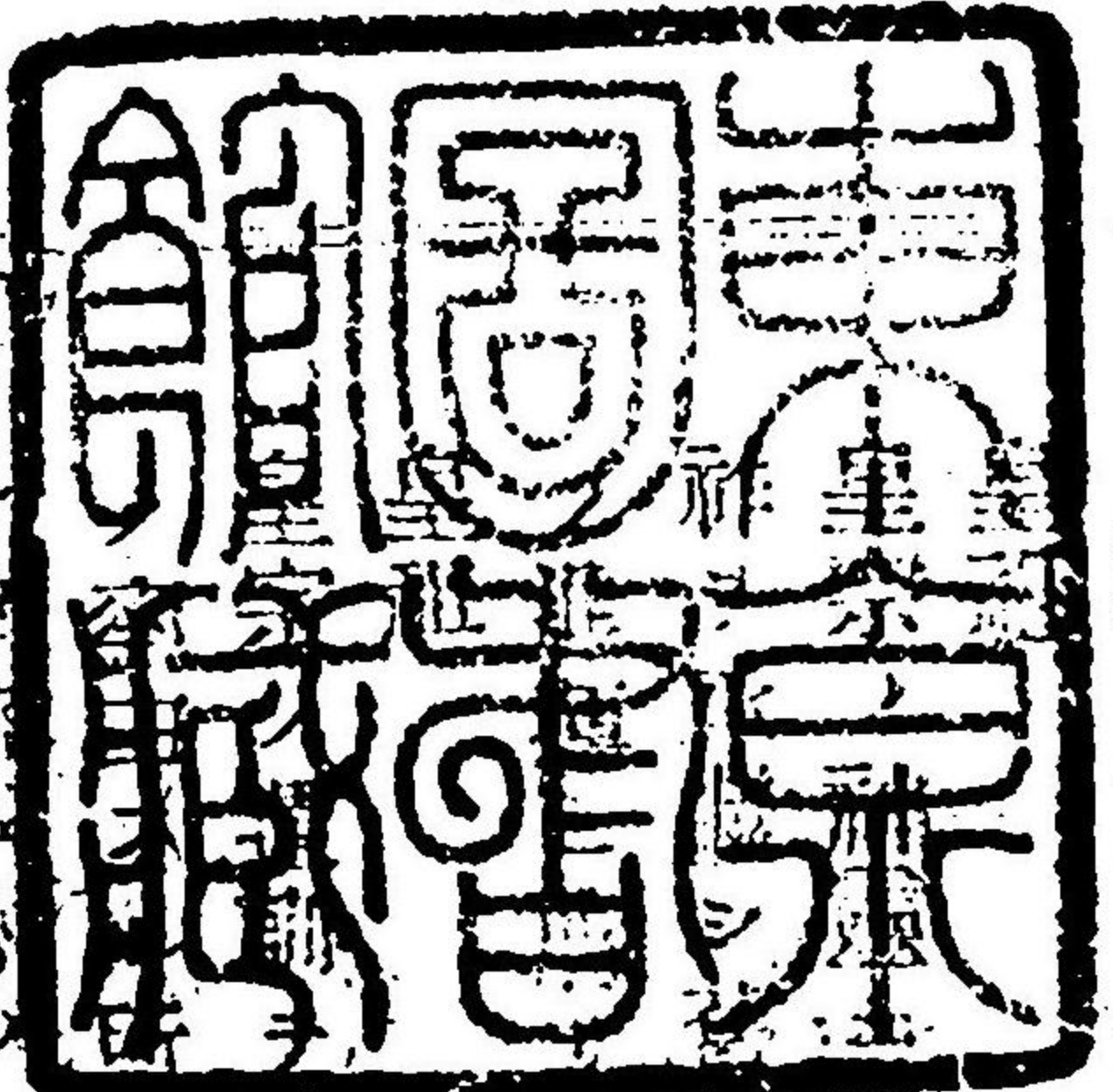


No 16149



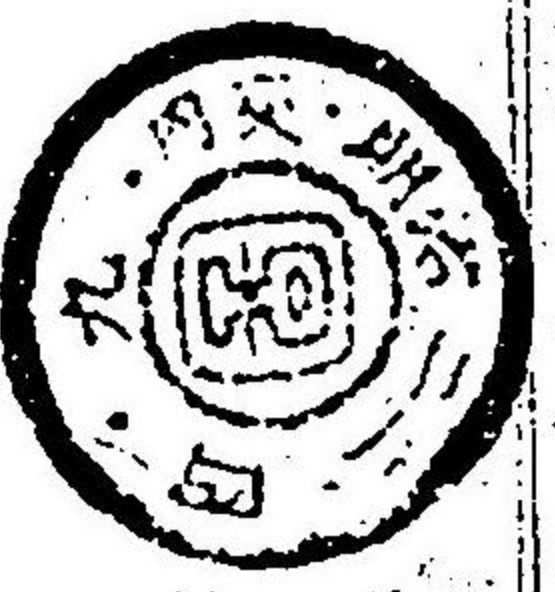
皇族ノ道ニ畏ミ

告文

話ケ白サク皇族ノ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶
圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局
人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫
ト爲シ外ハ以テ臣民翊賛ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セ
シメ給フ事ヲ不基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ
皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖



皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而
シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルユトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕ノ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲
章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ

神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ
承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ
宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國
ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝
ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國
吏ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民
ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ
和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永
久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコ
トヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ威烈ヲ承ケ万世一系ノ帝位ヲ履ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ
惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ幸福ヲ増進シ其ノ壽德良能ヲ發達セシ
メムコトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明
治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後
嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ遵行スル所ヲ知ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將
來此ノ憲法ノ條章ニ遵ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ
朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ
於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス
帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効
ナラシムルノ期トスヘシ
將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラバ朕及朕カ繼統
ノ子孫ハ發議ノ權ヲ取り之ヲ議會ニ附シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ
議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治廿二年二月十一日

内閣總理大臣	伯爵 黑田清隆
樞密院議長	伯爵 伊藤博文
外務大臣	伯爵 大隈重信
海軍大臣	伯爵 西郷從道
農商務大臣	伯爵 井上馨
司法大臣	伯爵 山田顯義
大藏大臣兼 內務大臣	伯爵 松方正義
陸軍大臣	伯爵 大山巖
文部大臣	子爵 森有禮
逓信大臣	子爵 榎本武揚

帝國憲法義解

附議院法、衆議院議員選舉法、會計法、貴族院令、皇室典範

憲法總論

憲法トハ政權ノ組織及公權ノ原則ニ關スル法律ヲ云フ
政權ノ組織トハ政治機關ノ構成ニシテ立法行法ノ權限
範域是ナリ公權トハ人民各自ノ權能ヲ伸暢スル權力ニ
シテ夫ノ心身自由ノ權所有權ノ如キ是ナリ我憲法ハ公
權ノ原則ヲ第二章ニ定メタリ其旨ヲ要スルニ法ノ制禁
セサル所ハ其許ス所ナルヲ見ルヘキナリ
憲法ハ法律ニ非ルヤ否疑ナキ能ハサル者アリ何トナレ
ハ凡ソ立憲國ハ其法律ヲ制定スルヤ立法院ノ決議ヲ經

ルヲ要ス我國ノ如キモ亦法律ハ議會ノ協賛ヲ要スト憲法ニ規定セリ然ルニ憲法ノ如キハ立法院ノ決議ヲ經タル者ニ非ス又協賛ヲ經タル者ニモ非レハナリ故ニ憲法ハ國長ノ國民ニ對スル規約ニ外ナラスト爲ス者アリ凡ソ社會ハ權ナカル可カラス權微リセハ則チ社會得テ統治スルヲ得ス土崩瓦解立テ待ツヘキノミ是獨人類ニ在テ然ルノミナラス地球ノ旋轉草木ノ榮枯凡ソ天地間ノ森羅万象皆權ニ依テ統轄セラレテ然ル者トス故ニ苟モ社會ヲ成サレハ則チ已ム既ニ社會ヲ成セハ直ニ權ノ必要ヲ生ス其最モ主要ナル者稱シテ建定權ト爲ス是社會ヲ創建統治スル所ノ大權ニシテ諸權ノ基礎ト爲ス

諸種ノ政權皆コレヨリ出ツ或ハ稱シテ主治權又ハ主權ト爲ス我憲法ニハ之ヲ統治權ト爲ス今ヤ社會ヲ成セルノ國ハ其政體ノ何如社會ノ大小ヲ問ハス皆此權ニ依リテ成立セリ但主權ノ所在社會ニ隨テ同カラス或ハ國民ニ屬スル者アリ稱シテ民主政ト爲ス或ハ國君ニ屬スルアリ稱シテ君主政ト爲ス或ハ國民ノ一部ニ屬スルアリ稱シテ寡人政ト爲ス夫是ノ如ク主權ハ其所屬各異ナリト雖モ苟モ社會ヲ成セル以上ハ未ダ主權ナキ者アラズ主權ヨリ支出スル權之ヲ被建定權ト爲ス其力主權ニ亞キ能ク社會ノ事物ヲ統理ス立法行法ノ兩權是ナリ或ハ分テ三權ト爲セル者アリト雖モ(立法行政司法)今ヤ復タ此

說ヲ唱フル者ナク諸說一定シテ二權分立ト爲セリ三權
 并立ヲ主張スル者ハ行政司法ノ二權ヲ別視スト雖モ不
 可ナリ何トナレハ司法ト云ヒ行政ト云ヒ皆行法權ノ一
 部ニシテ唯其施行スル所ノ法律ヲ異ニスルノミ即チ行
 政法ヲ行フキハ之ヲ行政權ト爲シ司法ニ關スル法律ヲ
 行フキハ之ヲ司法權ト爲スノミ之ヲ要スルニ行法權ニ
 外ナラス故ニ主權ヨリ支分セラレタル被建定權ニシテ
 相并立以テ主要ノ用ヲ爲ス者ハ立法行法ノ兩權アルノ
 ミ
 專制國ニ在テハ此二大權皆同一人ニ屬スト雖モ之ヲ道
 理ト事實ニ照セハ之ヲ分立セシメサル可カラズ夫自ラ

特15
430

帝國憲法義解 附議員法、衆議院議員選舉法、
 附議員法、衆議院議員選舉法、
 會計法、貴族院令、皇室典範、

第一章 天皇

〔解釋〕 本章ハ我大日本帝國ノ君位ヲ踐ミ斯國ヲ統治シ斯民ヲ愛撫
 シ給フ所ノ 天皇陛下ノ握有セラル、權利ヲ定メタルモノナリ
 抑モ我大日本帝國ハ 烈祖創業以來二千五百有餘年ノ久シキ萬
 世一系ノ 天皇陛下ノ統治ニ給フ所ニシテ上下君臣ノ分整然ト
 シテ紊ル、コトナク 皇家ノ尊嚴肅然トシテ未ダ曾テ冒瀆セラ
 レサルハ實ニ我國特有ノ美制ニシテ我國民ノ大ニ誇稱スヘキ所
 ナリサレハ今憲法ヲ以テ特ニ 天皇陛下ノ權利ヲ規定スルノ必
 要ナキモノ、如シ然リト雖モ億萬斯年ノ後時勢ノ變遷推移ニヨ
 リ或ハ兇徒亂賊ノ出ツルアリテ 皇家ノ尊嚴ヲ瀆シ奉ラシモ知

ルヘカラス故ニ之ヲ今日ニ確定シテ苟モ斯ル不祥ノ其間ニ生ス
 ルコトナカラシメサルヘカラス加之我國ニ於テモ明年帝國議會
 ナ開設シ立憲君主政體ヲ實施セラル、ニ於テハ 天皇陛下ノ握
 有シ給フ所ノ權利ヲ明ニシ以テ臣民并ニ國家トノ關係ヲ確定ス
 ルハ是立憲君主政體ナル意義ニ於テ避クヘカラサル所ナリ故ニ
 憲法ヲ以テ 天皇陛下ノ權利ヲ規定スルモ決シテ皇家ノ尊嚴ヲ
 冒瀆スル所以ニアラス實ニ君主政體ノ基礎ヲ確定シ 皇統一系
 室祚無窮ノ原則ヲ億萬斯年ノ久シキニ傳ヘテ變更スル所ナカ
 ラシムルモノトス

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

〔解釋〕 前既ニ一言シタル如ク我大日本帝國ハ 烈祖神武天皇位ニ
 倭ノ橿原宮ニ即カセ給ヒテヨリ以來二千五百有餘年ノ間 天皇
 陛下ノ統治シ給ヒタル所ニシテ 天孫降臨以來代々更フルコト

百二十餘ノ多キニ至リ 皇統連綿トシテ曾テ變易スル所アラザ
 リシ是既往及現在ニ於テ然ルノミナラス亦實ニ未來幾千萬年ヲ
 經ルモ決シテ變更スヘカラサル所ノ一大原則ナリ本條ハ即チ此
 原則ヲ確定セラレタルモノニシテ是實ニ古今萬國ニ其比類ヲ見
 サル條規ナリトス

萬世一系ノ大原則ハ吾人卑賤ナル臣民ノ口ニ上スモ畏キコトナ
 レハ今敢テ之ヲ喋々スルコトナカルヘシ其統治ノ事ニ至テハ第
 四條ノ規程アリ余輩ハ該條ニ至リテ更ニ詳説スル所アルヘシ

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

〔解釋〕 本條ハ 皇位繼承例ヲ定メラレタルモノニシテ其順序ハ
 皇室典範ヲ以テ別ニ定ムルコト、セラレタリ
 熟ラ國史ヲ緝キ既往ニ於ケル 皇位繼承ノ例ヲ按スルニ多クハ
 皇男子孫ノ繼承シ給フ所ナレトモ上古ニ在テハ 皇女ノ登極シ

給ヒタル例抄シトセス然レモ本條并ニ皇室典範ノ定メラシタル所ニヨレハ必ス皇男子孫ノ承繼シ給フ所ト爲シ皇女ハ自今踐祚シ給フヲ得サルコトハナレリ其理由ノ如キハ吾人臣民ノ議スル所ニアラサルナリ

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

〔解釋〕 本條ハ天皇無責任ノ大原則ヲ定メタルモノナリ

〔神聖ニシテ侵スヘカラス〕トハ二大原則ヲ包含スルモノナリ其一ニ曰ク「君主ハ惡ヲ爲サズ」ト是立憲君主國ニ於テハ最も重要ナル原則ナリ抑モ君主ハ國家ニ君臨シ給フ所ナルヲ以テ決シテ惡業ヲ爲シ給フモノニアラズ又過失アルモノニアラズト推測ス是即チ天皇ハ神聖ナリトシテ原則ヲ生ズル所以ナリ
既ニ天皇ハ神聖ナリトシテ而シテ國家ニ君臨シ法律ノ外ニ在ラスモノナルカ故ニ假令政事上及刑事上如何ナル惡業過失アルモ

之ニ責任ヲ歸スルコト能ハス是即チ天皇ハ侵スヘカラスト云ヘル原則ノ存スル所以ナリ

而シテ若シ萬一コモ天皇ニシテ過失アラハ之ヲ如何ニスヘキ手饒ヒ之ヲ責メ之ヲ咎ムルコトナシトスルモ尙ホ怨望ノ集點ト爲ルカ如キコトアリテハ誠ニ由々シキ一大事ナリ是ヲ以テ天皇ノ事ヲ執ラセ給フニ當リテハ必ス國務大臣ヲ以テ副署セシメ(第五十五條)其責任ハ一切國務大臣ニ於テ負擔スヘキモノトス是本條ノ原則ヨリ生ズル必然ノ結果ナリトス

〔理由〕 凡ソ職權ヲ有スル者ハ其權利ノ執行ニ關シテ責任ヲ負フヘキハ普通ノ理ナリ況ンヤ其憲法ニ背キ法令ニ違フニ於テオヤ然リト難モ君主ハ神聖ニシテ惡ヲ爲サス饒ヒ之ヲ爲スモ之ニ責任ヲ歸スルコト能ハストハ是立憲君主政體國ノ憲法ニ於テ伴シク認ムル所ナリ是抑モ如何ナル理由アツテ然ル手蓋シ君主ノ地位

チ安固ナラシメ激烈ナル争ノ集点ト爲ルヲ避クルニ在リ若シ君主ト雖モ過失アルニ當リテ一々之ヲ問責スヘキモノトセハ其尊嚴ヲ損スノミナラス其過失ノ大ナルモノニ至テハ或ハ廢立ノ問題ヲ生スヘシ是歐洲諸國ニ於テ君主ヲ無責ノ地位ニ安置シ其政事上タルト刑事上タルトヲ論セス總テノ過失ヲ問ハサル所以ナリ我邦ニ於テハ本條ノ原則ハ古來事實ニ行ハル、所ニシテ天皇ノ過失ヲ爲シ給フカ如キハ決シテ之アルコトナシ然レハ或ハ百世ノ後奸臣賊子ノ責ヲ 天皇ニ歸シ奉ルカ如キコト之ナシトモ必スヘカラス是本條ノ原則ヲ扨ケテ豫メ其尊嚴ヲ冒瀆スル者ナカラシメント欲シタル所以ナリ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

〔解釋〕凡ソ集合體ハ必ラスヤ其首領ナカレヘカラス昔シ集合體ニ

シテ其首領ナカリセハ自ラ四分五裂シテマタ其體ヲ備フル能ハス夫レ然リ國家モ亦一個ノ集合體ナリ是ヲ以テ國家亦其首領ナカルヘカラス本條ハ即チ我國ノ首領タルヘキモノ、何人ナルカヲ定ムルモノニシテ 天皇ヲ以テ國ノ元首ト爲セリ是素ヨリ言フ迄モナキコトニシテ我邦ニ於テハ 天皇ノ外元首タルヘキモノハ決シテ之アラサルナリ其所謂「元首」トハ國家ヲ代表シテ國家ハ政務ヲ統括スル者是ナリ是ヲ以テ 天皇ハ國家ノ元首トシテ必ラスヤ握有シ給フ所ノ權利ナカルヘカラス其權利ハ即チ統治權ヲ總攬シ給フコト是ナリ

〔統治權〕トハ所謂主權ノ義ニシテ國家萬般ハ政務ヲ統括スルハ權ヲ云フ此統治權ハ建國以來 天皇ノ握有シ據テ以テ萬機ヲ統ヘ立法行法ノ大綱ヲ攬リ給フ所ナリ彼ノ立憲政體ノ根元タル英國ノ如キハ皇帝ハ主權ヲ有スト云フモ有名無實ニシテ其實國會即

テ庶民院ノ握有スル所ト爲リ皇帝ハ唯虛名ヲ有スルニ過キス然レモ我帝國ニ於テハ獨リ天皇ノ占有シ給フ所ニシテ帝國議會ハ唯之ヲ翼賛シ奉リ國務大臣ハ僅ニ之ヲ補弼シ奉ルニ過キス是實ニ我國體ノ整然トシテ秩序アル所以ナリ

斯ノ如ク 天皇ハ元首トシテ主權ヲ握有シ給フカ故ニ立法行法ノ大權ハ皆一ニ 天皇ノ行ナハセ給フ所ナリ然リト雖モ其之ヲ行ナハセ給フニ當リテハ必ス憲法ノ定ムル所ニ從ハサルヘカラス是實ニ此憲法ノ制定アル所以ナリ

〔理由〕 天皇ノ統治權ヲ行ナハセ給フニ其隨意ニ一任スルコトナク必ス憲法ニ從ハセラル、ヲ要スルモノハ是立憲政治ノ立憲政治タル所以ニシテ君主政体ニ於ケル憲法ハ其君主カ握有スル統治權ヲ行フノ關係ヲ指示スルモノナリ若シ其君主ニシテ憲法ニ從フコトナク隨意ニ統治ヲ爲スニ於テハ是立憲政体ニアラスンテ

純然タル君主專制政体ト謂ハサルヘカラス本條ニ於テ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フト規定シタルハ蓋シ我政体ノ立憲君主政体タルコトヲ明示シタルモノトス

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

〔解釋〕「帝國議會」トハ立法ニ參與シ 天皇ノ統治權ノ執行ヲ翼賛シ

奉ルノ府ナリ詳シクハ第三章ニ就テ觀ル可シ

〔協賛〕トハ協和賛同ノ意ニシテ 天皇ノ發案シ給ヒタル法律ニ協和賛同スルヲ云フ

〔立法權〕トハ法律ヲ制定スルノ權ヲ云フ

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ立法行法ノ大權ヲ行ハセ給フト雖モ其立法權ヲ行ハセ給フニハ必ス帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ得サルヘカラス故ニ若シ帝國議會ニ於テ其議案ニ協賛セズ若クハ帝國議會ノ協賛ヲ得ルニ至ラスシテ發布シタルモノハ

之ヲ法律ト謂フ能ハサルモノトス(第三十七條)

〔理由〕 天皇ノ立法權ヲ行ナヒ給フハ是統治權ヲ有シ給フヲ以テナリ而シテ其之ヲ行ヒ給フニハ必ラズ帝國議會ノ協賛ヲ要スト爲シタルハ是代議政体ノ實ヲ示シタルモノナリ夫レ統治權ヲ有スル者ニシテ立法權ヲ行フノ權アルハ素ヨリ當然ノコトナリ然ルト雖モ之ヲ其者ノ隨意ニ行フ所ニ任スルノ弊害寔ニ恐ルヘキモノアリ蓋シ國土ノ廣キ人口ノ多キ其風土慣習ニ應シテ政務ヲ行ハサルヘカラス隨テ立法ノ事アル決シテ易々タルコトニアラス故ニ其一令ヲ布キ一法ヲ發スル毎ニ國家ノ大勢ヲ察シ社會ノ必要ヲ觀サルヘカラス善ク其目的ヲ達スルハ人民ノ代議士ヲ集メ之ヲシテ立法ノ事ニ干預セシムルニ在リ是立憲政体ニ於テ議會ヲ設ケ立法權ノ一部ヲ行ハシムル所以ナリ本條ノ規定アル亦以テ知ルヘキナリ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

〔解釋〕 本條モ亦 天皇ノ立法權及行法權ヲ規定シタルモノナリ

〔法律裁可〕トハ帝國議會ニ於テ議決シタル法律案ヲ認メテ法律タルノ効ヲ附與スルモノヲ云フ是 天皇ノ有シ給フ所ナリ然レモ茲ニ宜シク注意スヘキハ 天皇ハ唯法律ヲ裁可スルノミナラス或ハ之ヲ裁可セサルヲ得ヘキコト是ナリ

法律案ニシテ 天皇ノ裁可ヲ得タルモノハ法律タルノ効ヲ有スヘシト雖モ其効力ヲ發生セシメシムルニハ必ズヤ之ヲ公布シ之ヲ執行セサルヘカラス是亦 天皇ノ有シ給フ所ナリ所謂「公布」トハ法律ヲ國民ニ知ラシムルモノニシテ「執行」トハ其法律ヲ遵奉セシムルノ謂ナリ

〔理由〕 帝國議會ハ法律案ヲ討議スト雖モ其議決シタル所ハ直ニ法律タルノ効ヲ與フルコト能ハス何トナレハ議會ハ或ハ輿論ニ背

馳ニ或ハ國家ノ不利ト爲ルヘキ法律ヲ議決スルニ至ルヤモ亦知
ルヘカラサレハナリ是ヲ以テ 天皇ニ其裁可ノ權ヲ附シ以テ國
利民福ヲ保維セサルヘカラス而シテ其裁可權ヲ 天皇ノ權利中
ニ措キタルモノハ是 天皇ハ立法權ヲ有シ給フヲ以テナリ又
天皇ハ行法權ヲ有シ給フカ故ニ其行法權タル法律ノ公布及執行
ノ權モ亦 天皇ノ有シ給フ所ナルハ勿論ノコトトス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解
散ヲ命ス

〔解釋〕「召集」トハ議員ヲ會同セシムルモノニシテ其召集ハ議院法第
一條ニ定ムルカ如ク勅諭ヲ以テ其集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四
十日前ニ之ヲ發布スヘキモノトス此召集ニ應シ各議院ノ議員會
同シタルトキハ更ニ勅命ヲ以テ開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族
院ニ會合セシメ開院式ヲ行フ議院法第五條閉會トハ議會ヲ閉テ

其年ノ議事ヲ終了スルモノニシテ是亦勅命ニ由リ兩院合會ニ於
テ之ヲ舉行スヘキモノトス(同第三十六條)又停會トハ議會ノ開會
中一時其議事ヲ中止スルノ謂ヒニシテ議院法第三十三條ニヨレ
ハ政府ハ何時ヲリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコ
トヲ得ト規定セリ然レ此停會ヲ命スルハ 天皇ノ權利ナルヲ
以テ政府ハ隨意ニ之ヲ命スルコト能ハス必ラス勅命ヲ以テスヘ
キモノトス而シテ此停會ナルモノハ多クハ議會ノ議事穩當ヲ缺
キ又ハ人民或事柄ニ關シ非常ニ激昂熱中シテ議會ヲ脅迫シ若ハ
兩院互ニ軋轢スル等ノ場合ニ命スルモノトス

〔衆議院ノ解散〕トハ現在ノ議員ノ資格ヲ剝奪シ之ヲ改選セシメ又
同時ニ議會ヲ閉ツルヲ云フ抑モ衆議院議員ハ人民ノ親シク選舉
スル所ニシテ其輿論ヲ代表スルモノナリト雖モ時トシテハ輿論

ニ背馳シ國益ニ反スル所ノ議決ヲ爲スコトアリ又或ハ議員ノ非常ニ激昂シテ内閣ヲ攻撃シ到底之ヲ止ムヘカラサルトキノ如キ即チ之カ解散ヲ命スルモノニシテ此場合ニ於テハ其議員ハ悉ク資格ヲ失フモノナルカ故ニ全國內ニ於テ議員ノ撰舉ヲ爲サ、ルヘカラス然レモ本條ハ唯衆議院ノ解散ト記スルカ故ニ貴族院ニ於テハ決シテ解散ナルモノアルコトナシ而シテ其衆議院ノ解散ヲ命シタルトキハ帝國議會ハ完全ニ成立スヘカラサルヲ以テ必ス停會ヲ命スヘキモノトス

〔理由〕 帝國議會ハ 天皇ノ統治權ノ執行ヲ翼賛シ奉ル爲ニ天皇ノ開カセ給フ所ノモノナリ故ニ其召集開會停會閉會等ノ權ハ 天皇ノ有シ給フ所トス又解散ヲ命スルノ權ヲ 天皇ノ有ニ歸シ奉リタルモ同一ノ理ニ出テタルモノニシテ且 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ國家最高ノ地位ニ在ラスモノナルカ故ニ不

偏不黨唯國家ノ利害ニ着眼アラセラル、ヲ以テ其處分最モ公平ナルコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ 天皇ハ統治權ヲ有シ給フカ故ニ其大權ノ動止ハ一ニ 天皇ノ御心ニ委テヘキモノトス是本條ノ規程アル所以ナリ

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅命ヲ發ス

此ノ勅命ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布ス可シ

〔解釋〕 法律ハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキモノナルコトハ第五條及第三十七條ノ定ムル所ナリ故ニ 天皇ト雖モ決シテ此條規ニ

反シ帝國議會ノ協賛ナシテ法律ヲ制定シ給フコトヲ得サルナリ然リト雖モ本條ハ左ノ場合ニ於テハ法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スル勅令ヲ發シ給フコトヲ得ルノ例外ヲ設ケタリ

(一) 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ必要アルトキ○即チ内亂外患等ニヨリ燒眉ノ急アル場合はナリ

(二) 公共ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要アルトキ○例ヘハ傳染病大ニ流行シ若クハ饑饉ニ際シタル場合ノ如キ是ナリ

右ノ如キ事情アルモ帝國議會開會中ナレハ直ニ法案ヲ議會ニ送付スルコトヲ得ヘシト雖モ其閉會中ナルトキハ假令臨時會ヲ召集スルモ到底其燒眉ノ急ニ應スルコト能ハス是ヲ以テ 天皇ハ勅令ヲ發シ法律ニ代用シ給フコトヲ得ルモノトス

然レモ此ノ勅令ハ永遠ニ法律ノ効力ヲ有スルモノニアラス故ニ若シ永遠法律ノ効力ヲ有セシメシニハ次ノ會期ニ於テ必ス帝國

議會ニ提出シ其承諾ヲ受ケサルヘカラス議會ニシテ若シ之ヲ承諾スルトキハ此ノ勅令ハ永遠ニ法律タルコトヲ得ヘシト雖モ若シ之ヲ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布セサルヘカラス然レモ一旦法律トシテ行ヒ來リタルモノハ既往ニ溯テ其効力ヲ失フモノトスルニアラサルヲ以テ該勅令ニ由リテ既ニ處分シタルコトハ之ヲ有効トセサルヲ得ス

〔理由〕 本條第一項ノ理由ハ其事柄ノ危急ニ迫リ正當ナル手續ヲ以テ法律ヲ立ツルコト能ハサルモノナリ然モ仍帝國議會ノ協賛ヲ以テスルニアラサレハ法律ヲ立ツルコトヲ得ストセハ却テ公共ノ安寧ヲ害シ之ヲ災厄ニ陷レサルヲ得サルニ至ル是ヲ以テ勅令ヲ發シ法律ニ代用スルコトヲ得ルモノト爲シタルナリ然レモ是ハ素ヨリ臨機變例ニ過キサルヲ以テ其將來ニ効アラシメシニハ正當ノ立法手續ヲ履ムヘキモノトス而シテ其協賛ヲ得サリシ場

合ニ既往ニ溯テ其勅令ノ効力ヲ失セシメサルハ其臨機應變ノ處分マテテ取消スノ必要ナキノミナラス斯ノ如ク爲スヘキモノトセハ其結果ノ頗ル不都合ナルモノアルヲ以テナリ

第九條 皇天ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

〔解釋〕本條ハ 天皇ノ行政上ノ命令ヲ發シ給フ場合ヲ定メタルモノニシテ左ノ場合ニ於テハ 天皇親ラ命令ヲ發シ又ハ發セシメ給フコトヲ得ルモノトス

- (一) 法律ヲ執行スル爲ニ必要ナル場合○即チ或法律ヲ制定シ之ヲ公布執行スルニ當リ其執行上必要ノ事項ヲ指示スル命令ヲ云フ
- (二) 公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ナル場合○例ヘハ東京ノ地ニ過激ナル壯士ノ入込ニ都人ヲシテ危險ノ思ヲ爲サシムル等ノ

コトアルトキハ特ニ命令ヲ發シテ警察官吏ヲ増置シ其巡邏ヲ嚴密ナラシムル場合ノ如キ是ナリ

(三) 臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル場合○例ヘハ斯々ノ事ヲ爲サシムルトキハ大ニ臣民ヲシテ利便ヲ感セシムト云フカ如キ場合ニ於テ特ニ其施行ヲ命令スルカ如キ是ナリ

以上三個ノ場合ニ於テ 天皇ハ特ニ命令ヲ發シ給フコトヲ得ルニ此命令ハ法律ニ定ムル所ニ反スルコトヲ得ス而シテ此命令ナルモノハ行政上ノモノニシテ其關スル所ハ一時若クハ一部局ニ止マルモノニシテ法律又ハ勅令ノ如ク永遠且一般ノモノニアラサルナリ

〔理由〕天皇ハ行政部ノ首長ニシテ常ニ社會人民ノ安寧幸福ヲ圖リ又法律ノ施行ヲ圓滑ナラシムルコトニ注意シ給フモノナリ故ニ其必要アルニ當リテ法律ニ背反セサル限リハ行政上ノ利便ヲ計

ヲセ給フハ亦至當ノコト、ス是 天皇ニ行政上ノ命令ヲ發シ給
フノ權アル所以ナリ

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ
任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々
其條項ニ依ル

〔解釋〕「行政部」トハ内閣ヲ始トシ外務内務海軍陸軍大藏司法文部農商
務遞信ノ各省及道府縣等ノ地方官廳ヲ云フ此等ノ行政部ノ官制
ハ 天皇ノ定メ給フ所ナリ然リト雖モ 天皇ハ獨斷ヲ以テ立法
部及司法部ノ官制ヲ定メ給フコト能ハス蓋シ此等ハ法律ヲ以テ
定ムヘキモノナレハナリ故ニ帝國議會及衆議院ノ組織ハ議院法
及衆議院議員選舉法ヲ以テ之ヲ定メ裁判所ノ官制ハ法律ヲ以テ
之ヲ定ムヘキモノトセラレタリ(第五十七條又行政部ノ官制ト雖
モ此ノ憲法ニ於テ特ニ定メラレタルモノハ 天皇ノ隨意ニ定メ

給フコトヲ得サルモノトス故ニ例ヘハ會計検査院ノ組織權限ハ
行政部ノ官制ニ屬スト雖モ第七十二條第二項ニ別ニ法律ヲ以テ
定ムヘキモノトセラレタリ

又 天皇ハ文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免シ給フノ權アリ
然レモ亦憲法ノ指定スル所ニ從ハサルヲ得サルカ故ニ此ノ憲法
ニ於テ定ムル所ノ特例ニ付テハ 天皇ハ之ヲ獨裁シ給フ能ハス
例ヘハ貴族院及衆議院議長ノ俸給及其任免法司法官ノ任免俸給
(第五十八條)等ノ如シ

〔理由〕天皇ハ行政部ノ首領ナルコトハ屢々論述シタル所ノ如シ故
ニ行政部ハ命ヲ 天皇ニ承ケテ其事務ヲ分擔スルモノナリ故ニ
天皇ハ其官制ヲ左右スルノ權ヲ有シ給フハ素ヨリ論ヲ俟タス然
レモ立法部ノ如キ司法部ノ如キハ各獨立シテ其職權ヲ行フコト
ヲ要スルヲ以テ行政部ノ如シ天皇ノ隨意ニ給フコトヲ得ス必

スヤ帝國議會ノ協賛ヲ以テスルコトヲ要シタリ
天皇ハ斯ノ如ク行政部ノ官制ヲ左右シ給フニ由リ文武百官ヲ任
免スルノ權 天皇ニ在ルコトモ亦更ニ辯ヲ俟タサルナリ

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

〔解釋〕「陸海軍ヲ統帥ス」トハ陸海軍ノ總督ト爲リ其進退ヲ命令指揮
スルヲ云フ 天皇ハ陸海軍統帥ノ全權ヲ有シ給フカ故ニ次條ニ
規定スルカ如ク陸海軍ヲ編制シ常備兵額ヲ定ムルノ權アリ又武
官ヲ任免シ城塞ヲ築キ軍器ヲ調度スル等モ亦皆 天皇ノ有シ給
フ所トス

〔理由〕夫レ國家兵馬ノ大權ハ行政權中ノ最要部分ヲ占ムルモノナ
リ故ニ行政部ノ首領タル 天皇ニ此大權ヲ委任シ隨時其處分ヲ
適當ナラシムルハ勿論ノコトトス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

〔解釋〕「陸海軍ノ編制」トハ兵種及其組織等ヲ云フモノニシテ常備兵
額常備兵ノ員數ヲ云フ此等ノ事ハ亦 天皇ノ定メ給フ所ナリ
〔理由〕天皇カ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ムルノ權ヲ有シ給フハ
是前條ノ規程ヨリ生スル結果ニシテ陸海軍統帥權ノ活用ナリ何
トナレハ陸海軍ヲ統帥スルトキハ自ラ其意ニ隨テ之ヲ編制シ又
其須要ナリトスルタケノ兵額ヲ備ヘサルヘカラス否スノハ則チ
其意ノ如ク之ヲ指揮シ國家危急ノ際其需要ニ應スル能ハサレハ
ナリ

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

〔解釋〕本條ハ天皇ノ國家代表權即チ宣戰講和ノ權及條約締結權ヲ
規定シタルモノナリ
宣戰ノ權トハ他國ニ對シテ兵力ヲ以テ權利ヲ伸暢スル旨ヲ宣布
シ報告スルハ權ヲ云フ故ニ此權利ハ國際上國家ヲ代表スル所ノ

權利ニシテ彼ノ内亂叛逆アルニ當リ之カ征討ヲ布告スルモノト
相同シカラズ此征討ノ宣旨ヲ布告スルハ亦 天皇ノ有シ給フ所
ナリト雖モ這ハ決シテ國家代表權ニ由ルニアラス 天皇ハ行政
部ノ首領ナルヲ以テナリ
講和ノ權トハ何ソヤ曰ク國際ノ戰爭其終局ヲ告ケ兩國和睦スル
ノ權利ヲ云フ故ニ是亦國家ヲ代表スル所ノ權利ニシテ 天皇ノ
有シ給フ所ナリ

條約締結權モ亦國家ヲ代表スルノ權ナリ何トナレハ條約ヲ結フ
ハ即チ此國ト彼國トノ際ニ關スルモノニシテ國家全体ヲ代表ス
ルニアラサレハ其餘約ハ一個人ノ私約ニ過キサレヲ以テナリ此
條約ニ種々アリ國際條約兩國ノ交際其相互政權ノ關係等ヲ定ム
ルモノト云ヒ通商條約(商業上ニ關スル條約ヲ云フ)ト云ヒ又或ハ
保護條約(甲國侵畧ヲ蒙リ危急ナルトキハ兵食ヲ貸與シ之ヲ保護

スヘント約スルモノ是ナリ)同盟條約ト云フ皆是ナリ 天皇ハ其
何レノモノタルヲ問ハス皆之ヲ締結スルノ全權ヲ有シ給フナリ
本條ニ諸般ノ條約トアルハ蓋シ之カ爲メナリ

〔理由〕 天皇ハ何か故ニ宣戰講和條約締結等ノ權ヲ有シ給フ乎曰ク
此等ノ權利ハ外國ニ對シ其國家ヲ代表スルモノナリ而シテ 天
皇ハ國家ノ元首ナレハナリ之ヲ譬フレハ猶ホ會社カ契約ヲ結ヒ
民事上ノ總テノ行爲ヲ爲スニ必ス其社長ノ名義ヲ以テスルカコ
トキナリ是ヲ以テ 天皇カ此等ノ權利ヲ行ヒ給フハ決シテ 天
皇カ御自身ノ爲メニ行ハセ給フニアラス其國家全体カ 天皇ヲ
總代トシテ行フ所ノモノトス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔解釋〕 天皇ハ戒嚴ヲ宣告スルノ權ヲ有シ給フモノナリ所謂戒嚴ト

ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルモノニシテ其戒嚴ヲ宣告シタル土地ハ總テノ法律規則ハ皆臨機ノ處分ニ出ツルコトヲ得ルモノニシテ普通ノ法律規則ハ必スシモ之ヲ行フコトヲ要セサルナリ然レモ此戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ現時我邦ニ於テハ明治十五年八月五日第三十六號布告戒嚴令ヲ以テ之ヲ定メタリ故ニ天皇ハ戒嚴ヲ宣告シ給フト雖モ其要件及効力ハ必ラス此法律ニ從ハセタマハサルヲ得ス即チ天皇ノ宣告シ給フハ戒嚴ノ法律ニアラスシテ其法律ノ執行ナリトス

〔理由〕 戒嚴令ハ平時ニ在テ定メ置クト雖モ之ヲ執行適用スルハ非常ノ場合ニシテ普通法律ノ如ク常ニ適用セラレツ、アルモノニアラス夫レ戒嚴令ノ執行ハ斯ノ如ク重大ナルヲ以テ亦普通法律ノ如ク輕々シク之ヲ宣告シ得ヘキニアラス其之ヲ宣告スル者ハ

必スヤ國家ノ大勢ヲ洞察シ而シテ行政權ノ首領タル地位ニ在ルモノナラサルヲ得ス是之ヲ天皇ノ權利中ニ置キタル所以ナリ

第十五條 天皇ハ 位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

〔解釋〕 本條ハ君主ハ榮譽ノ源泉ナリトノ格言ヲ適用シタルモノナリ蓋シ此格言ハ君主タルヘキ者ハ爵位勳章及其他總テノ榮典ヲ授與シ給フノ權アルコトヲ意味スルモノトス

〔爵〕ハ公侯伯子男ノ五級ニ分ツ華族ノ當主ニ賜フ所ノ世襲ノ榮典ナリ〔位〕ハ分テ十六級ト爲シ八位ヨリ一位ニ至ル各位更ニ分テ正從ト爲ス〔勳章〕ハ國家ニ勳功アル者ヲ表彰スル所ノ榮典ニシテ分テ九等ト爲シ大勳位及勳一等以下八等トス〔其他ノ榮典〕ニハ從軍記章アリ從軍者ノ功ヲ表彰ス又賞牌アリ善行篤實ナル者若クハ殖産興業等ニ盡力シタル者ニ授與シ其名譽ヲ表ス此等ノ榮典名譽ハ皆天皇ノ授與シ賜フ所ナリ

〔理由〕抑モ 天皇ハ國家ノ最高位ニ坐シ貴重無限ノ地位ニ在マス
モノナルカ故ニ不偏不黨眞ニ能ク其名譽ヲ表彰シ得ヘシト雖モ
其他ノ者ニ在テハ必スシモ然ル能ハス又 天皇ハ最大名譽ノ地
位ニ在マセハコソ始メテ其表彰セラレタル名譽ハ名譽タルノ價
値ヲ有スルモノトス是之ヲ 天皇ノ權利ト爲シタル所以ナリ

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

〔解釋〕「大赦」トハ或事件ノ犯罪タルコトヲ赦免スルモノニシテ其罪
跡ヲ湮滅シテ曾テ犯罪ナキモノト看做スモノ是ナリ今回憲法發
布ノ盛典ニ際シ 天皇陛下ハ惠澤ヲ施サシカ爲メニ特ニ二十種
ノ犯罪ニ大赦ヲ行ハセ給ヒタリ故ニ其大赦ヲ得タル犯罪事件ハ
既往ニ在テ總テ湮滅ニ歸シタルモノニシテ例ヘハ集會條件ニ違
背シタル犯罪者アランニ其既ニ刑ヲ受ケタル者タルト未タ刑ヲ
受ケサリシ者タルトヲ問ハス總テ無罪潔白ノ人ト爲ルモノナリ

又特赦トハ犯罪人ノ情狀ヲ酌量シテ特ニ之ヲ赦免スルモノヲ云
フ故ニ其大赦ト相異ナル所ハ(一)大赦ハ犯罪ナキニ至ルモ特赦ハ
刑ヲ免スルニ止マリ犯罪ハ依然存在ス(二)大赦ハ公訴ノ起リタル
ト未タ起ラサルトヲ問ハサルモ特赦ハ必ス確定裁判ヲ經タル者
ナラサルヘカラス(三)大赦ハ或事件ニ關スル犯人全体ヲ赦免シ其
人ノ情狀ニ關セス特赦ハ之ニ反シ事件ニ關セス人ニ關ス故ニ
亦其情狀ヲ觀サルヘカラス(四)大赦ヲ得タル者ハ當然公權ヲ復ス
ルモ特赦ハ赦狀中ニ明記ナキ以上ハ復權ヲ得ス是其二者主要ナ
ル差異ナリ

〔減刑〕トハ刑法中ニ記載セル宥恕減刑酌量減刑等ヲ云フコトアラス
犯罪ノ刑ヲ減輕スルヲ云フ今特赦ナル語ヲ廣ク解スルトキハ減
刑モ亦之ヲ包含スルコトヲ得ヘシ何トナレハ特赦モ亦刑ヲ減ス
ルモノナレハナリ然レモ之ヲ分テ記シタルヲ以テ之ヲ見レハ特

赦ハ刑ノ全部ヲ免スルヲ云ヒ減刑ハ其一部ヲ免スルヲ指スモノナルヘシ故ニ其性質効果ニ至テハ相異ナルコトナシ

〔復權〕下ハ公權ヲ剝奪セラレタル重罪犯人ノ公權ヲ復スルヲ云フ
〔理由〕天皇ニ赦免減刑復權ヲ命スルノ權ヲ歸屬シタル所以ノモノハ是等ハ皆嚴格ナル法律ノ適用ヲ避ケ其配合ヲ適當ナラシメ若クハ國家ニ慶賀スヘキ事アルニ際シ惠澤ヲ施ス所以ニシテ天皇ニアラスンハ焉クン能ク其無偏無私ナルヲ得ンヤ又惠澤ヲ施スカ如キハ是 天皇ノ尊嚴ニ附着スル所ニシテ他人ノ得テ爲スヘキ所ニアラサルヲ以テナリ

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

〔解釋〕攝政ハ 天皇未タ成年ニ達シ給ハス若クハ久シキニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親裁シ給フコト能ハサル場合ニ置クモノニシ

テ其之ヲ置ク場合及攝政タルヘキ人ノ如何ハ皇室典範ヲ以テ別ニ定ムルコトトセラレタリ

攝政ノ職務ハ 天皇ニ代リテ大政ヲ執ルニ在リ然レモ爲ニ統治權ハ攝政ニ歸シ攝政ハ國ノ元首ト爲ルニアラス其大權ハ皆 天皇ニ屬スルモノニシテ 天皇其元首タルコトハ普通ノ場合ト異ナラス故ニ攝政ハ自己ノ名ヲ以テ大權ヲ行フコト能ハス必ラス天皇ノ名ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第二章 臣民權利義務

〔解釋〕本章ハ帝國臣民ノ有ス可キ權利并ニ負フ可キ義務ヲ定ムルモノニシテ臣民ノ權利幸福ハ此ノ章ノ條項ニ依リテ之ヲ卜知スヘシ實ニ本章ハ臣民ノ利害休戚ノ關ル所重大ニシテ我々臣民カ金城鐵壁トモ頼ム可キ貴重ノ條項ハ本章ニ於テ之ヲ列記セリ

第十八條 日本臣民タルモノ、要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

〔解釋〕 日本臣民タルノ要件トハ議員ノ資格ノ如ク或ル格段ナル條件ヲ要スルコアラズ則チ日本臣民ノ子ニシテ日本國土ニ生レ且ツ日本國ノ戶籍ニ在ル者ハ如何ナル條件ヲモ要セス日本臣民タルト雖モ外國人ニシテ日本臣民ニ嫁シタル者又ハ養子ト爲リタル者若クハ日本國ニ歸化シタル者或ハ日本臣民ニシテ外國人ニ嫁シタル者又ハ養子ト爲リタル者ノ資格ハ民法人事篇ニ於テ規定セラルヘキモノナリ〔臣民〕トハ日本人民ノ男女ヲ併セ稱スルナリ

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

〔解釋〕 日本臣民ハ何人ヲ論セス文武官ト爲リ及其他公務ノ職ニ就ク可キ權利ヲ有セリ然レモ其固有ノ權利ヲ實行セザレハ法律命令ノ定ムル所ニ從ハサルヘカラス即チ婦女子ハ政權公務ノ職ニ

就クヲ得サルカ如キ或ハ幼年者或ハ廢疾者タルヲ以テ文武官ニ任用セラレ又ハ公務ノ職ニ就クヲ得サルカ如キ或ハ文武官登用試験ヲ受ケ登第シタル者ニアラサレハ官吏ニ任用セサルカ如キハ別ニ法律命令ヲ以テ制限セラル、ナリ然レモ其固有ノ權利ニ付テハ毫モ消長スル所ナク唯其執行ニ制限アルヘキナリ故ニ婦女子タル者モ何時參政ノ權利ヲ得ルニ至ルヤ知ルヘカラサルナリ

〔理由〕 日本國土ハ日本臣民カ上 皇室ヲ奉戴シテ與ニ俱コシ護スヘキモノナリ故ニ其種族ニ依リ權利ヲ異ニスルカ如キゴトアルヘカラス即チ本條ハ國民平等ノ大原則ヲ確認セラレタルモノナリ若シ夫レ一部ノ人民又ハ局部ノ種族ヲシテ文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得セシメハ他ノ臣民ハ此ノ國土ヲ愛スルノ念漸ク減却スルニ至ルヘシ若シ否ササルトキハ互ニ其

權利ヲ爭ヒ國家ノ革命ヲ來タスノ虞ナシトセス故ニ時勢ノ變遷
ヲ鑑ミ既ニ明治維新ノ始メニ於テ此ノ原則ヲ確認セテレタリ

第二十條

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

〔理由〕 往時封建時代ニ在リテハ兵役ノ義務ハ或ル種族即チ今日稱
スル所ノ華族又ハ士族ニアリテ平民ハ兵事ニ關ルヲ得サリシ然
レモ日本國土ハ日本臣民タル者ノ與ニ俱ニ守ルヘキモノナレハ
從テ兵役ノ義務ヲシテ一般ノ臣民ニ負ハシメタル所以ナリ而シ
テ兵役ノ義務ヲ賦課スルハ法律即チ徵兵令ノ定ムル所ニ從フヘ
キモノトス其詳細ハ明治二十二年一月二十一日法律第一號徵兵
令ヲ見ルヘシ

第二十一條

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

〔理由〕 國民ニ二ツノ重大ナル義務アリ一チ兵役ノ義務ト云ヒ二チ
納稅ノ義務ト云フ其兵役ノ義務ハ前條ニ於テ略述シタリ又納稅

ノ義務モ亦此ノ國家ヲ維持スル爲メニ負擔スルモノナリ即チ政
府ヲ維持シ政費ヲ支辨スル爲メニ此ノ納稅ノ義務ヲ負ハシムル
ナリ租稅ハ人民ノ資力ヲ強テ減殺スルモノナレハ其之ヲ賦課ス
ルヤ必要ノ費額ノミニ止メ或ハ濫費ヲ徵收シ或ハ過重ノ義務ヲ
負ハシムヘカラス若シ横歛ヲ爲サハ實ニ國民ノ產業ヲ失フノミ
ナラス漸ク國力ノ疲弊ヲ來タシ國家ハ遂ニ滅亡ニ歸セン豈ニ恐
レサルヘケンヤ

然レモ既ニ國家ヲ組成スル以上ハ其組成スル所ノ人ヲシテ國家
ノ維持ニ必要缺クヘカラス費額ハ其人民ノ同意ヲ得テ之ヲ徵
収スルハ決シテ不當ノ事ニアラサルナリ於是乎憲法ヲ以テ臣民
ノ權利義務ヲ規定シ議會ヲ設ケテ其協贊ヲ得サルヘカラス是レ
立憲政治ノ依テ起ル所以ナリ
斯ノ如ク徵租ハ重大ナルコトナレハ 天皇陛下ノ隨意ニ徵收セ

ラル、コアヲスミテ帝國議會ノ協賛ヲ得タル法律ニ從ヒ徵收セラル、モノトス故ニ帝國議會ノ承諾セサル租税ハ人民ニ於テ之ヲ納ムヘキノ義務ナキモノトス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住移轉ノ自由ヲ有ス

〔解釋〕 本條ハ國民ノ移轉ノ自由ヲ確認セラレタルモノナリ現ニ内國ニ移轉居住スルハ法律ノ制限ナシト雖モ但シ刑辟ニ觸レタル者ノ如キハ格別ナリ外國ニ移住スルカ如キハ法律ノ規定ニ從ハサレハ之ヲ許サ、ルナリ

〔理由〕 移轉居住ハ人民ノ自由タリト雖モ此ノ國土ニ住シ此ノ國家ヲ組織スル所ノ臣民ハ此ノ邦國ヲ守護スル所ノ義務ナカルヘカラス若シ自由ニ此ノ國土ヲ去リ自由ニ此ノ邦國ノ守護ノ義務ヲ免カルヲ得セシメン乎素ヨリ斯ル愛國心ノ乏シキ者ハ稀レナル

ヘント雖モ國家ノ生存ニ大害ヲ與フルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ國家ノ政略上若クハ臣民ノ本分トシテ多少ノ制限ヲ受ケサルヘカラス是レ外國へ移轉居住ノ場合ニ於テハ各國何レモ多少ノ制限アル所ニシテ本條ニ於テモ法律ノ範圍内ナル一語ヲ加ヘ移轉ノ自由ニ制限ヲ付シタル所以ナリ之ニ反シ内國ノ移轉居住ニ對シテハ何等ノ制限モアルコトナシ又其制限ヲ設クヘキノ必要ヲ認メサルナリ然レモ處刑者即チ被監視者假出獄者ノ如キハ再ヒ犯罪ヲ爲シ他ノ良民ニ害ヲ加フルノ虞ナシトセス故ニ公益ノ爲メ其移轉ノ自由ヲ制限セサルヘカラス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

〔解釋〕 「逮捕」トハ捕縛シ又ハ拘引スルヲ云ヒ又監禁トハ家内若クハ室内ニ留置スルヲ云フ「審問」トハ裁判所若クハ警察署等ニ於テ糾

斷スルヲ云ヒ又處罰トハ重罪輕罪違警罪ノ刑罰ニ處スルヲ云フ
本條ハ人身ノ自由ヲ確認セラ人權ヲ尊重セラレタルモノナリ

〔理由〕凡ソ人其正當ノ事由アルコト非ス又法律ニ依ルコト非シテ猥
リニ逮捕監禁セラル、トキハ常ニ其業ニ安ンスルヲ得ス國家ハ
之カ爲メニ終ニ開進ノ途ニ就クヲ得ス故ニ人身ノ自由ヲ確保シ
テ其堵ニ安ンセシムルヲ要ス然レモ其自由ヲ許シテ却テ國家ノ
危害ヲ生スヘキ恐レアルトキハ之ヲ制限シ若クハ全ク之ヲ剝奪
スルコトアルヘシ是レ國家ノ秩序安寧ヲ保護スルニ缺クヘカラ
サルヲ以テナリ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ
權ヲ奪ハル、コトナシ

〔解釋〕本條ハ國民カ法律ニ定メラレタル裁判官ノ裁判ヲ受タルノ
權利ヲ確保セラレタルモノナリ

〔理由〕人其身體自由名譽及財産ノ大權ヲ侵害セラレタルトキハ之
ヲ保護シ或ハ其既ニ受ケタル損害ハ之ヲ回復セサルヘカラス若
シ人各々自ラ裁判ヲ爲シ自ラ損害ヲ回収セシ手遂ニ弱肉強食ノ
慘狀ヲ呈シ國家ハ茲ニ泯滅ニ歸セン是レ國法ハ各自ニ裁判ノ權
ヲ與ヘズ大權ノ裁決ニ委任セシムル所以ナリ是ヲ以テ臣民ハ其
權利ヲ侵害セラレタルトキハ大權ノ裁斷ニ訴ヘサルヘカラス從
テ臣民ハ大權ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ有スルナリ即チ民法ハ公
平不偏ナル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ有シ他ノ行政官ノ如キ
官吏ノ裁判ヲ受ケ又ハ其裁判ニ服スルノ義務ナキモノトス但シ
法律ニ從ヒ行政裁判所ニ出訴スル場合ノ如キハ素ヨリ例外タル
ヘシ往時封建ノ代ニ在リテハ臣民ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ剝奪
シ強チ行政ノ處分ニ從ハシメシコト稀レナラサリキ故ニ本條ニ
於テハ其弊害ヲ生スルアヲコトナ恐レ此ノ大權ヲ確保セラレ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナ

クシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ

〔解釋〕 本條ハ家宅不可侵ノ大則ヲ確保セラレタルモノナリ

〔理由〕 夫レ人ノ家宅ハ猶ホ邦國ノ城郭ニ於ケルカコトクニシテ猥
リニ他人ノ窺匿ヲ入ルヘカヲサルナリ則チ人ノ家宅内ニハ如何
ナル秘密ノ事アルヤ知ルヘカヲス然ルニ猥リニ侵入セラル、ト
キハ臣民ノ其安寧ヲ害シ且ツ其營業ヲ妨害スルヲ以テ如何ナル
權力ヲ有スル官吏ト雖モ法律ニ定メタル場合ノ外ハ其許諾ヲ得
スシテ其家宅内ニ侵入シ或ハ其家宅内ヲ搜索スルコトヲ許サ、
ルナリ況ンヤ一般ノ人民ニ於テナヤ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ秘密
ヲ侵サル、コトナシ

〔解釋〕 本條ハ信書秘密ノ權利ヲ確保セラレタルモノナリ

〔理由〕 國家ニ機密アル如ク臣民ニモ亦其秘密アルヘシ若シ國家ノ
機密ヲ暴白セン乎國家カ其害ヲ被ムル所ノ結果ノ大小ハ豫メ知
ルヘカヲス之ト同シク臣民ニシテ其秘密ヲ害セラレシ乎亦其害
ノ輕重ハ之ヲ知ルヘキナリ夫ノ信書ノ如キハ人ノ思想密事ヲ通
スルモノニシテ口傳耳受ノ内密或ハ一舉万金ヲ博スル商機ノ秘
事ナシトセス若シ之ヲ暴露セラレシ乎其害ノ輕重大小ハ智者ヲ
俟テ後ニ知ラサルナリ然レモ國家事變ノ場合ニ於テハ公益ノ爲
メ其自由ヲ滅殺セサルヘカヲス是レ本條ニ於テ法律ニ定メタル
云々ノ一語ヲ加ヘタル所以ナリ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

〔解釋〕 本條ハ財産安固ノ權利ヲ確保セラレタルモノナリ然レモ若

公益ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ其所
有權ヲ害セラル、コトアルヘシ「所有權」トハ財産ヲ使用シ収益シ
及處分スルノ權利ヲ云フ

〔理由〕凡ソ財産ハ人ノ依テ以テ其生命ヲ全フシ快樂ヲ得ル所ノモ
ノナリ若シ財産ノ權利即チ所有權ニシテ確乎ナラサシテ乎何人
カ苦シテ財産ヲ増殖スルモノアラシ国民皆ナ斯ノ如キ思想ナル
トキハ其邦國次第ニ疲弊シテ遂ニ滅亡ニ歸セン故ニ本條ニ於テ
國民ノ所有權ヲ確保セヨレタル所以ナリ
然レモ私益ハ公益ノ爲メニ殺サルヘキヲ以テ此ノ大權ニモ多少
ノ制限ヲ受ケサルヘカラス即チ公益ノ爲メニ必要ナル場合ニ於
テハ法律ニ定メラレタル規則ニ從ヒ其所有權ヲ強買セラル、コ
トアルヘク又其物件ノ公害ヲ爲スヘキモノタルトキハ裁判所ニ
沒收セラル、コトアルヘシ刑法第四十三條ニ曰ク左ニ記載シタ

ル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ
定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ(一)法律ニ於テ禁制シタル物件
(二)犯罪ノ用ニ供シタル物件(三)犯罪ニ因テ得タル物件ト是等ハ所
有權ニ制限ヲ加ヘタルコトアラズ其所有ノ權利ヲキテ以テ之ヲ奪
取スルナリ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背
カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

〔解釋〕本條ハ國民ノ信教ノ自由ヲ確保セラレタルモノナリ故ニ苟
モ國家ノ安寧秩序ヲ紊亂セス及國民タルノ義務ニ違背セサル以
上ハ如何ナル宗教ヲ信スルモ素ヨリ其自由ナリトス
〔理由〕凡ソ人ハ其自ラ信スル所ノ宗教ヲ公ケニ信仰シ未來ノ安心
ヲ托スル所ノ自由即チ信教ノ自由モ亦國民ニ缺クヘカラサルモ
ノナリ歐洲ニ於テハ國教ヲ定メタルカ爲メ大乱ヲ醸セシコト少

ナカラス蓋シ信教ハ人ノ内部ニ属スルコトナレハ決シテ之ヲ制限スルコトヲ得サルナリ然レモ其宗教ニシテ國家ノ安寧秩序ヲ紊亂スルカ若シハ國民タルノ義務ニ違背スルヲモ顧ミサルカ如キモノハ國家ノ害ヲ爲スヘケレハ宜シク之ヲ禁セサルヘカラス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

〔解釋〕 本條ハ國民ノ政治上ニ有スル權利自由ノ最大最重ナルモノ即チ言論著作印行及集會結社ノ自由ヲ確保セラレタルモノナリ〔理由〕 凡ソ國民タル者ハ其邦國ノ施政上若クハ其他一切ノ事件ニ付キ自己ノ思想ヲ吐露シ其當否ヲ論評スルノ自由ナカルヘカラス國民ヲシテ言論ノ自由ヲ得セシメ政治ノ利害得失ヲ論評セシムルトキハ一ハ當路者ノ注意ヲ惹起シ政治ノ改良ヲ計リ一ハ國民ノ政治思想ヲ發達セシメ以テ國利民福ヲ爲スコト尠少ナラサルナリ然レモ公安風儀ヲ害スル所ノ言論ハ之ヲ許スヘカラス是レ即チ本條ニ法律ノ範圍内ト云ヘル一語ヲ加ヘラレタル所以ナリ然リ而シテ其法律ノ範圍内トハ如何ナル程度限界ナルヤハ特別法律即チ新聞條例等ノ明示スル所ナレモ一般ノ原則ヨリ見ルトキハ凡テ政府カ爲シタル處置ノ當否ヲ論シ或ハ之ヲ是非スルカ如キ又ハ政治家其他ノ者カ世ニ公言シタル論說及其施シタル手段若クハ其取リタル進路ノ當否ニ付キ論評スルカ如キハ決シテ法律ノ問フヘキ所ニアラサルナリ

凡ソ學術技藝ヲ進メ其國ノ文明ヲ導キ世弊ヲ矯正セント欲スルニハ著作ノ自由亦頗ル必要ナリ然レモ國家ノ秩序安寧ヲ害シ或ハ一般ノ風儀ヲ紊亂ヘキ著作ハ之ヲ許スヘカラス是レ著作ノ自由ニモ法律ノ範圍内ナル一語ヲ加ヘ其制限ヲ爲シタル所以ナリ此他印行ノ自由ハ言論及著作ノ自由ト相關聯スルモノナレハ特

ニ之ヲ論述セサルヘシ又集會及結社ノ自由ハ人其思想ヲ彼ニ通シ其思想ノ同一ナル者及其目的ノ同一ナル者二人以上ヲ集會セシメ或ハ論談シ或ハ相和樂シ又ハ將來ニ向テ一致團結シテ其方向ヲ共ニスルヲ云フ是等ノ自由ニ付テモ多少ノ制限アルヘキハ以來述ヘタル所ト同一ノ理由ニ基クモノナリ

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

〔解釋〕本條ハ請願ノ權利ヲ確保セラレタルモノナリ請願トハ要強ス可キノ權利ナクシテ其請求ヲ許容セラレシコトヲ哀訴歎願スルヲ云フ故ニ請願者ハ對等ノ地位ニ在ル者ニアラサレハ必スヤ相當ノ敬禮ヲ守ラサルヘカラス

〔理由〕凡ソ政府ハ一人一己ノ爲メニ私スヘカラス必スヤ一國ノ公益ヲ主トセサルヘカラス然レモ人民ニ責ム可キ過失ナクシテ

困厄ニ陥サリタルトキハ他ニ弊害ヲ及ホスヘキ虞ナキ以上ハ其哀願ヲ許シ之カ救濟ヲ施スヘキハ蓋シ政府ノ本分タルヘシ是レ本條ニ於テハ豫メ請願ノ許否如何ニ拘ハラス兎ニ角臣民ニ請願ノ權利アルコトヲ確保セラレタルモノナリ故ニ人民ハ行政上ノ處分ノ結果タルト又ハ自然ノ結果タルトヲ論セス政府ニ過失ナクシテ其身ニ受ケタル困難若クハ損害アルトキハ其損害ヲ縷陳シ其救濟ヲ哀願スルコトヲ得ヘシ然レモ其哀願ノ如ク果シテ救濟スルヤ否ヤハ哀願ヲ受クル者ノ自由ニ在ルヘケレハ豫メ其許否ヲ知ルヘカラス

第三十一條 本章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

〔解釋〕本條ハ本章ニ於テ日本臣民ノ權利ヲ確保セラレタル戰時若クハ國家ノ危急存亡ナル事變ノ場合ニ於テハ必スシモ其條規

ヲ確守セサルコトヲ示サレタルナリ

〔理由〕 臣民ノ權利固ヨリ尊重セサル可カラスト雖モ國家ノ事變若クハ戰時ニ在テモ必ス本章ニ規定シタル如ク臣民ノ權利ヲ尊重セサルヘカラストスルトキハ却テ臣民ノ大害ヲ爲シ國家ハ如何ナル有様ニ至ルヤ知ルヘカラスト故ニ一國ノ統治權ヲ有シ給ヒ陸海軍ノ元帥タル 天皇ハ國家危急存亡ノ場合ニ於テハ臣民ノ權利ヲ侵害スルコトアルモ臨機應變ノ處分ヲ爲シ給フコトヲ明言シタルナリ然レモ平常ハ 天皇タリトモ此ノ憲法ニ從ハセ給フヘルコトナリ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

〔解釋〕 陸海軍ノ軍人ハ常人トハ異ニシテ之ヲ統御スルニハ嚴格ナル紀律ニ服セサルヲ得ス故ニ陸海軍ノ法令ハ自ラ通常法トハ嚴

酷ニシテ相牴觸スルコトナキニアラス是ヲ以テ本條ニ於テ陸海軍ノ法令ニシテ本章ノ條項ニ牴觸セサルモノ、ミ之ヲ適用シ其他ハ陸海軍ノ法令ニ從ハシムルナリ今其制限ノ著シキモノヲ見ルニ集會結社出版ノ自由ノ如キハ其最ナルモノナリ

〔理由〕 陸海軍ノ軍人モ均シク日本人ナレハ此ノ憲法ノ條章ニ從ヒ一般人民ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負ハサルヘカラスト然レモ軍人ハ嚴峻ナル紀律ヲ以テ之ヲ箝束セサルヘカラスト故ニ此ノ憲法ニ規定シタル國民ノ權利義務ヲ伸縮増減セラル、アルヘシト雖モ其他ハ總テ此ノ憲法ニ從ヒ權利ヲ有シ義務ヲ負フヘキコトヲ定メタルナリ

第三章 帝國議會

〔解釋〕 帝國議會トハ貴族院ト衆議院トヲ以テ成立シタル國家ノ立法部ニシテ總テ法律議案ニ協贊又ハ承諾ヲ與ヘ以テ 天皇ノ立

法事務ヲ翼賛シ奉リ又國家ノ財政ヲ議決シ總テノ行政事務ヲ監督スルモノナリ然レハ帝國議會ハ爲メニ立法權ノ全部ヲ有スルモノト考フヘカラス第一章ニ於テ説明シタルカ如ク我邦ノ統治權ハ 天皇ノ握有シ給フ所ナルカ故ニ立法其他ノ大權ハ一ニ天皇ノ手理ニ屬スルモノナリ是ヲ以テ帝國議會ハ立法權ヲ有シテ之ヲ行フニアラス唯 天皇ノ立法權ヲ翼賛シ奉ルニ過キス故ニ帝國議會ハ 天皇カ其大權執行上ノ一機關トシテ開カセ給フモノトス是民主政体ニ於ケル國民議會ナルモノト其性質ハ眞ニスル所以ニシテ本章ニ説入ルノ前ニ當リ應ニ知ラサルヘホラサル所ナリトス

帝國議會ノ性質斯ノ如クナルカ故ニ左ノ職務ヲ有スルモノトス
 第一 立法事務○即チ法律草案ヲ議定シ政府ノ發案ニ對シテ協賛又ハ承諾ヲ與フルコト然レハ其議決スル所ハ唯法律草案ニシ

テ直ニ法律タルノ効アルニアラス是立法權ノ全部ヲ有セサルヲ以テナリ

第二 財政事務○政府ノ會計豫算ヲ議決シ其新ニ租稅ヲ課シ稅率ヲ變更シ又ハ國債ヲ起ス等ノ事ハ皆帝國議會ノ協賛ヲ以テスヘキモノトス

第三 行政監督○國務大臣カ其行政ヲ施行スルニ當リテ違法不當ノ事ナキヤ否ヤ公共ノ利益ヲ損傷スルコトアラサルヤ否ヤ等ヲ監督スルモ亦帝國議會ノ職務ナリ然レハ此事ニ關シテハ帝國議會ノ權力ハ甚々薄弱ナリ何トナレハ各國憲法ニ於テ其議會ノ行政監督權ヲ擔保スル爲メニ彈劾權ヲ衆議院ニ與ヘ國務大臣ニシテ違法ノ處置アルトキハ之ヲ貴族院ニ訴フルコトヲ許シ又或ハ衆議院ハ國務大臣ニ對シ信用ノ投票ヲ爲シ以テ内閣ヲ攻撃スルコトアリト雖トモ我憲法ハ此等ノ權利ヲ衆議院ニ與フルコ

トナシ然リト雖モ之カ爲メニ議會ニ行政監督ノ權ヲキコアラヌ
 憲法第四十九條ハ兩議院ニ與フルニ上奏權ヲ以テシ議院法第十
 章ニ於テハ兩議院ニ行政事務ニ關シテ政府ニ質問ヲ爲スコトヲ
 許セリ故ニ假令與フルニ彈劾權ヲ以テスルコトナシト雖モ實際
 議員ノ腕前ニ由リ充分其行政監督權ヲ運用スルヲ得ヘキナリ
 右ノ三大職務ノ事ハ各條項及議院法ニ於テ詳述スヘシ

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

〔解釋〕本條ハ帝國議會ノ組織ヲ定メタルモノニシテ二局議院ヲ以
 テ之ヲ組織ス即チ衆議院及貴族院是ナリ

貴族院トハ貴族ヲ以テ組織シタル議院ニシテ衆議院トハ國民ヨ
 リ公選シタル議員ヲ以テ組織スルモノヲ云フ此兩議院ヲ總稱シ
 テ之ヲ帝國議會トハ云フナリ

〔理由〕議會ヲ組織スルニ一局ト爲スヘキカ又ハ二局ト爲スヘキカ

ニ付テハ學者間夙ニ論議アル所ニシテ余輩ハ既ニ總論中ニ於テ
 之カ利害ヲ探究シタリ本法ハ即チ二局ノ制ヲ採リタルモノナリ
 其一局ヲ捨テ之ヲ二局ト爲シタルハ余輩ノ曾テ説明シタルカ如
 キ利益アルヲ以テ其利益ハ今更ニ之ヲ説明セス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任

セラレタル議員ヲ以テ組織ス

〔解釋〕本條ハ貴族院ノ組織ヲ定メタルモノニシテ其詳細ハ之ヲ貴
 族院令ニ讓リタルヲ以テ余輩モ亦茲ニ之ヲ詳説スルコトナシ唯
 其之ヲ組織スル者ノ種類ヲ左ニ示スニ止メシ○貴族院ヲ組織ス
 ル所ノ議員ハ左ノ五種トス(貴族院令第一條)

- 一 成年ニ達シタル皇族
- 二 公侯爵ヲ有スル者
- 三 伯子男爵各其同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニヨリ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

〔解釋〕 本條ハ衆議院ノ組織ヲ定メタルモノニシテ國民中ヨリ公選セラレタル議員ヲ以テ組織スルモノト爲セリ而シテ其公選議院ノコトハ衆議院議員撰擧法ニヨリ詳シク定メタルヲ以テ該法ヲ說クニ當リテ詳述スヘシ

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

〔解釋〕 一人ニシテ衆議院議員ニ公選セラレ更ニ貴族院議員ニ勅任セラレハコトアルヘシ斯ル場合ニ於テハ其孰レカ一方ヲ辭スヘシ

キモノニシテ決シテ同時ニ兩院議員ト爲ルコトヲ許サ、ルナリ
〔理由〕 斯ノ如ク兩議院議員ヲ兼ヌルコトヲ許サ、ルノ理由ハ(第一) 議會ヲ分テ二局ト爲シタルノ制ヲ破リ其本意ニ反スルニ至ル何トナレハ之ヲ二局ト爲セタルハ總論中ニ一言シタル如ク二局互ニ牽制シテ輕擧ノ議決ヲ爲スコトナカラシムルニ在リ然ルニ今議員ニシテ之ヲ兼タルトキハ其實一局議院ト毫ニ相異ナラザレハナリ(第二) 又假令之ヲ許シ相兼テシムルモ斯クスルトキハ其職ヲ全フスヘカヲサルニ至ルヘシ蓋シ兩院ハ必ス同時ニ開閉スルモノナルカ故ニ兩院ニ出頭シテ其職ヲ執ルコトハ到底爲シ得ヘキコトニアラス然モ之ヲ兼テシムルトキハ何レカ一方ニハ闕席セサルヘカヲサルニ至ルヲ以テナリ

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

〔解釋〕 本條ハ帝國議會ノ立法權ノ事ヲ規定シタルモノニシテ凡ソ

法律トシテ全國ニ布クヘキモノニ在テハ必ス帝國議會ノ協賛ナ
 カルヘカラス若シ其協賛ナクシテ發布シタルトキハ其法律ハ無
 効ノモノニシテ決シテ法律タルノ効チ有スルモノニアラス○協
 賛トハ協議賛同ノ謂ヒニシテ政府ノ發案ニ對シテ協議シ賛同ヲ
 表スルヲ云フ

法律ハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ要スト雖モ其協賛シタルモノハ直
 ニ法律タルノ効アルニアラス唯法律ノ草案タルニ過キス之ニ法
 律タルノ効ヲ付セシニハ必ス 天皇ノ裁可ヲ要スルモノトス
 法律ニアラサル勅令又ハ其他ノ行政規則ハ敢テ之ヲ帝國議會ニ
 提出シ其協賛ヲ經ルニ及ハサルナリ然ラハ法律ト勅令及行政規
 則トハ何ヲ以テ之ヲ區別スヘキ乎曰ク法律トハ行政上標準ト爲
 ル可キ一般ノ規則ヲ云ヒ勅令トハ法律ノ施行上又ハ行政上ノ細
 則若ハ特ニ皇室ニ關ル規程ヲ云ヒ行政規則モ行政上ノ細則ヲ指

ス故ニ法律ハ統治權ニ基キテ發布スルモノニシテ勅令ハ行政權
 ノ首領又ハ君主タルノ資格ヲ以テ發布スルモノヲ云フ而シテ其
 地ノ行政規則ハ國務大臣ノ發布スルモノトス

〔理由〕 法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ要スト爲シタルハ帝國議會ノ立法
 部タル所以ニシテ特ニ説明ヲ俟タス而シテ其勅令又ハ行政規則
 ハ協賛ヲ要スト爲サ、ルハ何故ニヤ蓋シ此等ノ行政規則ハ其時
 宜ニ從ヒ決スヘキモノニシテ終始一定ナル能ハサルノミナラス
 法律ニ從ヒタルモノナルカ故ニ之カ協賛ヲ經サルモ爲メニ國家
 ノ浮沈ニ關係スル程ノコトアラサレハナリ又其皇室ニ關ルモノ
 、如キハ是人民ノ協議ニ附スヘキモノニアラサルナリ

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律
 案ヲ提出スルコトヲ得

〔解釋〕 法律案ハ通例政府ニ於テ起草シ帝國議會ノ協賛ヲ得シカ爲

メ之ヲ兩議院ニ提出スルモノニシテ兩議院ニ於テ之ヲ可決シタルトキハ法律案ハ茲ニ成立スルモノトス又政府ヨリ提出スルコトナクシテ兩議院ニ於テ發案スルコトアリ此場合ニ於テモ兩議院ニ於テ可決シタルトキハ法律案ト爲ルモノニシテ之ヲ奏上シ裁可ヲ得タルトキハ法律ト爲ルモノトス

議決トハ其可否ヲ討議シ何レカニ決スルモノニシテ協賛ト混同スヘカラス蓋シ協賛トハ可決ノ場合ヲ指スモノニシテ否決シタルトキハ之ヲ協賛ト云フヘカラサルナリ

〔理由〕 兩院ニモ法律案ヲ提出スルノ權ヲ與ヘタルハ是立法部ニ自働ノ權ヲ與ヘタルモノニシテ政府ノ氣付カサル必要ニヨリ法律ヲ制定セサルヘカラサル場合ニ其必要ヲ滿タサシムルカ爲メナリ然レモ議院ハ如何ナル場合ト雖モ憲法ニ背キタル法律案ヲ提出スルコト能ハサルモノトス

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

〔理由〕 兩議院ニ於テ必要ナシト認メテ否決シタル法律案ハ何チ以テ同會期中ニ再ヒ提出スルコトヲ許サ、ル手蓋シ按スルニ一會期中幾回トナク同一ノ議案ヲ提出スルコトヲ得ルモノトモハ必要ナキ法律案ノ爲メニ屢々議事ヲ煩ハシ爲メニ他ノ議事ヲ滯留セシムルカ如キ結果ヲ生スルキ以テナリ

然レモ法律ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス「ト記スルヲ以テ其會期ヲ異ニシタルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得ヘシ是同一ノ議案ト雖モ時期ヲ異ニシタルトキハ更ニ其必要ヲ生スルコトアルヘケレハナリ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ

於テ再ヒ建議スルコトヲ得ヌ

〔解釋〕 本條ハ兩議院ノ建議權ヲ規定シタルモノニシテ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付政府ニ建議スルコトヲ許セリ故ニ貴族院ニ於テモ衆議院ニ於テモ或法律ヲ廢スルノ必要アリト認メタルトキ又ハ其ノ他ノ事件ニ付キ必要アリト認ムレハ之ヲ建議スルコトヲ得ルナリ又其ノ他ノ事件トハ一般行政上ノ事件ノミナラス憲法ノ改正變更等ニ關シテモ亦建議シ得ヘキモノトス而シテ其建議ニシテ採納ヲ得サルトキハ同會期中再ヒ建議スルコトヲ許サス然レモ其建議ヲ許サ、ルハ其同一事件ニ付テノ建議ニシテ他ノ事件ニ關スルモノハ幾回ニテモ之ヲ建議スルコトヲ得ヘキモノトス

〔理由〕 兩議院ニ法律其他ノ事件ニ付キ建議ヲ許スモノハ是帝國議會カ政府ニ對シテ行政^ニノ監督權ヲ有スルヲ以テナリ

而シテ其採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコト
ヲ許サ、ルハ是必要ナキコトニ付キ屢々政府ヲ煩ハスハ毫モ益
ナキノミナラス却テ其弊害アルヲ以テナリ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

〔解釋〕 帝國議會ハ毎年必ラス之ヲ召集セサルヘカラス而シテ其ノ
之テ召集スルハ 天皇ニシテ其手續ハ議院法第一章ニ於テ之ヲ
定メタリ茲ニ帝國議會召集ノ事ヲ定ムルモ其期日及回数ハ之ヲ
定メス故ニ毎年何月頃ニ之ヲ召集スルヤ又幾回召集スヘキヤノ
コトハ全ク勅命ニヨリ定ムヘキモノトス然レド概テ一定シタル
時期ニ於テ毎年一回之ヲ召集スルモノヲ通常會ト云ヒ其他臨時
ノ須要ニ應シテ開クモノハ之ヲ臨時會ト稱ス

〔理由〕 帝國議會ハ何故ニ毎年之ヲ召集スヘキモノト定メタルヤ帝
國議會ノ職務ハ毎年必ス歲計豫算ヲ議決セサルヘカラサルモノ

ニシテ猶ホ其他ニモ種々必要ナル議事アルヲ以テナリ而シテ其開會ノ時期ヲ定メサルハ議案ノ都合又ハ其時ノ情勢ニヨリ毎年必スシモ一定ナルコト能ハサルハナリ又其回数ハ豫メ之ヲ定ムル能ハス何トナレハ其必要ニ應シ臨時開會ヲ要スルコトアルヘケレハナリ

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於

テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

〔解釋〕 本條ハ帝國議會ノ會期ヲ定メタルモノニシテ本條ニ定メタル三箇月ノ會期ハ常會ノ會期ニシテ其臨時會ノ會期ハ次條ニ之ヲ定メタリ

若シ必要アルトキハ勅命ヲ以テ會期ヲ延長スルコトアルモ決シテ此會期ノ期限ヲ短縮スルコト能ハサルモノトス

〔理由〕 帝國議會常會ノ會期ヲ三箇月ト定メテ之ヲ短縮スルコト能

ハサルハ何故ソヤ蓋シ議會ニ於テ議スヘキ事件ナシトスルモ其
會期中ニ於テハ猶ホ議案ヲ提出シ若クハ人民ヨリ請願ヲ爲スコ
トアルモ知ルヘカラサル隨意ニ之ヲ短縮スルコトヲ許サハ議會
ノ權利ヲ害スルノミナラス又人民ノ權利ヲモ害スルニ至ルヘケ
レハナリ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召
集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

〔解釋〕 未タ常會ヲ開クヘキ時期ニ至ラス又ハ常會ヲ閉チタル後ニ
至リテ緊急ノ必要ニ迫ルコトアルヘシ斯ル場合ニ於テハ臨時ニ
帝國議會ヲ召集ス之ヲ臨時會ト稱ス
臨時會ハ臨時緊急ノ必要ニ迫リテ召集スルモノナルカ故ニ豫メ
一定ノ會期ヲ定ムルコト能ハス議案ノ如何ニ應シテ伸縮セサル

ヘカラス故ニ其會期ハ勅命ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

〔解釋〕

帝國議會ノ兩院ハ必ス同時ニ開閉シ停會スヘキモノニシテ

又其會期ヲ延長スルモ必ス同時ナラサルヘカラス貴族院ヲ開キ

テ衆議院ヲ開カス衆議院ヲ閉テ貴族院ヲ閉テサルコト能ハス然

レハ是唯帝國議會トシテ召集シタル場合ノコトニシテ衆議院ニ

關セス貴族院ニ特別ナル事件ヲ議スル爲メニ特ニ貴族院ノミテ

召集スルコトアリ即チ貴族院令第八條ニ定メタル議事ニシテ此

事ヲ議決スル爲メ貴族院ヲ開クモ爲メニ衆議院ヲ開クニ及ハサ

ルモノトス

又衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會ヲ命ゼ
ヨルヘキモノユシテ此場合ニ於ケル停會ハ解散ニ代ユルモノナ
ルカ故ニ普通停會ノ場合ト同シカラス(議院法第三十四條)

〔理由〕帝國議會ハ兩院ノ集合ニ成ルモノナリ故ニ其一院ヲ缺クニ
於テハ帝國議會ト云フヘカラス是ヲ以テ其兩院ノ開會閉會停會
及會期ノ延長ハ同時ニ爲スヘキモノトス

又衆議院解散ヲ命セラル、モ貴族院ニハ解散ノ事ナシ(其解散ノ
事ナキハ貴族院ニ於テハ之ヲ解散スルモ常ニ同一ノ議員ニシテ
之ヲ改選スルコトヲ得ス故ニ勅裁ヲ以テ其不都合ナル議員ヲ除
名セシムルコト、爲シタレハナリ)然レモ今衆議院ニ解散ヲ命シ
貴族院ヲ開クトキハ甚タ不都合ナルヲ以テ之ヲ停會スルコト、
ナシタルナリ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議

員ヲ撰擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

〔解釋〕 本條ハ衆議院解散ヲ命セラレタル場合ノ處分ヲ定メタルモノニシテ此場合ニハ其議員ノ資格ヲ剝奪スルヲ以テ必ズ議員ヲ撰擧セサルヘカラス其撰擧ノ方法ハ衆議院議員撰擧法ニ規定セリ

〔理由〕 衆議院ヲ解散セハ新ニ議員ヲ撰擧シ其解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スルコトヲ要シタルハ帝國議會ハ解散ノマ、之ヲ消滅セシムコトヲ許サ、ルニ在リ若シ其新ニ召集スヘキ期日ヲ定ムルコトナクシテ或ハ遂ニ議會ヲ召集セシテ之ヲ消滅セシムルノ恐ナキニアラサルナリ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分之一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

〔理由〕 本條ノ制限ヲ設ケタル所以ハ少數ノ議員ヲ以テ議事ヲ開キ

議決ヲ爲ストキハ自ラ疎略ニ流レ又輿論ニ背馳シ自家ノ利益ヲ害スルノ恐アレハナリ

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可不同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

〔解釋〕 本條ノ規則ハ一般會議法ノ通則ニシテ特ニ説明ヲ要スヘキモノナシ

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

〔解釋〕 會議ノ公開トハ一般公衆ニ傍聽ヲ許スヲ云フ兩議院ノ會議ハ公開ヲ以テ原則ト爲スト雖モ必要ナル場合ニ於テハ政府ヨリ要求シ又ハ其院ノ決議ヲ以テ傍聽ヲ禁シ秘密會ト爲スヲ許シタリ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スノ手續ハ議院法第三十七條以下ニ規定シタリ

其秘密會ト爲スヘキ場合ハ或ハ外交上ノ秘密ニ關スル事項又ハ一國ノ安寧風儀ニ關スル事項若ハ政府カ其議事ノ公ニ發表スル一チ欲セサル事項ヲ議スル場合ナリ

〔理由〕 議事公開ノ原則ハ帝國議會ノ最要ノ原則ニシテ實際不都合ナキ以上ハ必ス之ヲ公開セサルヘカラス凡ソ政治上ノ事ハ其如何ナル一タルヲ問ハス廣ク之ヲ發表シ苟クモ隱秘スル所ナキヲ要ス若然ラスンハ則チ有司其權ヲ專ニシ專制抑壓ノ風ヲ成シ國家ヲ傷害スルニ至ル是議會ヲ開キ代議士ヲ集メ立法ノ事ヲ議セシムル所以ナリ既ニ然ラハ其會議ヲ公開シ一般人民ヲシテ之ヲ傍聽セシムヘキハ論ヲ俟タサルナリ然リト雖モ若シ如何ナル事件モ必ラス之ヲ公開スヘキモノトセハ亦爲メニ弊害ヲ生スルコトナキ能ハス故ニ斯ル場合ニハ之ヲ秘密會ト爲スコトヲ許シタルナリ

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

〔解釋〕 上奏トハ 天皇ニ申告スルモノニシテ政事上ノ意見ヲ 天皇ニ申上ルルヲ云フ其手續ハ議院法ニ定メタリ

〔理由〕 兩議院ニ上奏ノ權ヲ與ヘタルハ是帝國議會ノ行政監督權ノ結果ナリ蓋シ帝國議會ノ政事上政府ヲ監督スルノ權利ヲ有スルモノナリ故ニ其政事上ノ事ニ付キ 天皇ニ奏上スルノ必要アリト看認ムルトキハ之ヲ奏上スルコトヲ許シタルナリ

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

〔解釋〕 憲法第三十條ニ於テ國民ニ請願ノ權利アルコトヲ認メラレタリ即チ本條ハ其結果ニシテ國民ハ其代表者ノ集會セル議會ニ對シ請願書ヲ呈出シ得ルコトヲ規定セラレタルモノナリ

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

〔解釋〕 兩議院ニ於テ其内部ノ整理ニ必要ナル諸規則即チ院内取締規則及議事細則ノ如キハ時々之ヲ變更セサルヘカラサルヲ以テ其院ノ自由ニ任スヘクシテ敢テ憲法ニ於テ一々之ヲ規定スルノ必要ナキナリ

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ

〔理由〕 本條ハ議員特權ノ一ナル言論ノ自由ヲ定メタルモノナリ則チ而議院ノ議員ハ其院内ニ於テ發言シタル言論及表決ニ付テハ院外ニ於テ其責ニ任スルコトナシ是レ議員ヲシテ充分ニ其思想ヲ吐露セシメント欲スレハナリ然レモ議員一私人ノ資格ヲ以テ其言論ヲ演說シ又ハ刊行シテ之ヲ公布スルトキハ一般ノ法律ニ從

ヒ其處分ヲ受ケサルヘカラス

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セララルコトナシ

〔解釋〕 本條ハ議員特權ノ一ナル身体自由ノ權ヲ定メラレタルモノナリ故ニ現行犯罪ノ如キ其犯跡ノ顯然ナルモノ及内亂外患罪ノ如キ重大ナル犯罪ノ外ハ其開會中ハ其議院ノ承諾ヲ得サレハ之ヲ逮捕スルコトヲ得サルナリ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

〔解釋〕 國務大臣及政府委員ハ議會ノ公開タルト秘密タルトヲ論ゼズ何時ニテモ各議院ニ出席シ及發言スルノ權利ヲ有スルナリ此ノ權利ヲ國務大臣及政府委員ニ與ヘタルハ政府ヨリ提出シタル議案ノ説明ヲ爲シ以テ原案ヲ維持セシカ爲メナリ

若シ夫レ其議案ニシテ各議院ヨリ發案セラレタルモノナラン乎
其議案ノ施政上ノ不都合ヲ生スヘキモノナリヤ否ヤヲ辨明スル
ノ必要アレハナリ然レハ國務大臣及政府委員ハ議員ニアラサレ
ハ表決ノ數ニ與カルコトヲ得サルナリ

第四章 國務大臣及樞密顧問

〔解釋〕 本章ハ國務ノ各大臣及樞密院顧問官ノ職權責任ヲ規定シタル
モノナリ○國務大臣トハ國家ノ政務ヲ掌ル所ノ親任官ニシテ現
今ノ官制ニ在リテハ内閣總理大臣。樞密院議長。外務大臣。內務大臣
大藏大臣。陸軍大臣。海軍大臣。農商務大臣。文部大臣。遞信大臣等ヲ云
フ〔樞密顧問〕トハ國家樞要ノ政務ニ對シ 天皇陛下ノ顧問ニ應ヘ
奉ル議官ヲ云フ

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

〔解釋〕 本條ハ國務各大臣ノ職務及責任ヲ規定セリ○〔輔弼〕トハたす
たすくと云ヒテ 天皇ノ爲サセ給フ事ヲ輔翼贊弼スルヲ云フ〔副
署〕トハ副へて名を署すノ意義ニテ 天皇ノ御名御璽ノ記印シア
ル次へ此ノ法律勅令ハ真正ノモノニシテ且署名者ノ興リ知リタ
ルコトヲ證スル爲メニ第二次ニ署名スルヲ云フ

〔理由〕 國政ハ 天皇ノ親裁シ給フ所ナレハ其責任ハ 天皇ノ負ハ
セ給フコソ至當ナレ然ルニ國務ノ各大臣ハ 天皇ノ御施政上ニ
付其責任ヲ連帶負擔スル所以ノモノハ他ナシ國務ノ各大臣ハ
天皇ヲ輔弼シ奉ル職位ニ在リナカラ臣民ノ遵奉ニ堪ヘサルカ如
キ法律勅令ヲ發布スルニ至リシハ輔弼者ノ過失ニシテ其責任ヲ
免カル、ヲ得サルナリ若シ豫メ法律勅令ノ不穩當タルコトヲ知
ラハ宜シク諫言シ奉ルヘシ其職ヲ退クヘシ然ルニ其職位ニ在リ
テ法律勅令ノ發布ニ署名セリ其責任ノ歸スルモ亦自然ノ道理ナ

リ況ンヤ 天皇ハ神聖ニシテ侵ス可カラサルニ於テチヤ 天皇ノ無責任ノ特權ニ付テハ余輩既ニ第三條ニ於テ詳述シタレハ茲ニ贅セス

又凡ソ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要スルノ理由ハ該法律勅令ハ 天皇ノ御裁定ニ出テタルコトヲ臣民ニ對シテ保證センカ爲メナリ從テ該法律勅令ニ對シテハ其責任ス可キコトヲ默示スルモノナリ

〔問〕 御名御璽ナキ法律勅令ハ 天皇ノ裁可ヲ給ハサルモノニシテ亂臣賊子ノ聖旨ヲ僞リ發布シタルモノナレハ其効力ナキハ言テ俟タサレヒ唯單ニ國務大臣ノ副書ナキ法律勅令ハ其効力アリヤ否ヤ

〔答〕 國務大臣ノ副書ナキ法律勅令ハ其責任ヲ歸スヘキ所ナキヲ以テ其効力ナキモノトス本條第二項ニ於テ詔勅ハ國務大臣ノ副

書ヲ要ストテ國務大臣ノ副書ヲ以テ條件ト爲セリ故ニ其條件ナク欠缺セハ無効タルヤ知ルヘキナリ

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審理ス

〔解釋〕 樞密院官制ハ明治二十一年四月廿八日勅令第廿二号ヲ以テ公布セラレタリ其公布ノ勅文ニ曰ク朕元勳及練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス下又其官制第一條ニ曰ク樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス下而シテ其職掌ハ官制第二章ニ於テ列記セリ

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フヘシ

一 憲法及憲法ニ附属スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算其他會計上

ノ疑義ニ關スル爭議

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附屬スル法律ノ改正ニ關スル草案

三 重要ナル勅令

四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ條約及行政組織ノ計畫

五 前諸項ニ掲ケルモノ、外行政又ハ會計上重要ノ事項ニ付特ニ勅令ヲ以テ諮詢セラレタルトキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ要スルトキ

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

右ニ列記セル條文ニ依リ樞密院ノ何タルヲ知ルヲ得ヘキヲ以テ

更ニ詳述セサルヘシ

第五章 司法

〔解釋〕 本章ハ司法即チ裁判ニ關ル條項ヲ規定セリ○司法トハ法律ノ適用ヲ掌ルヲ云フ

抑モ司法ハ一國ノ公平ヲ維持シ秩序ヲ保護スル所ナリ民命之ニ依テ安ク財產之ニ依テ固ク名譽之ニ依テ全キヲ得ヘシ若シ司法權ノ獨立確乎ヲ得サルトキハ人民ノ權利遂ニ安全ヲ得スシテ人々其堵ニ安ソスルヲ得ス乃チ人民ハ司法權ノ頼ムニ足ラサルヲ知リ暴ヲ以テ暴ニ易ヘ自ラ裁判ヲ爲スニ至リ遂ニ優勝劣敗ノ數ニ從ヒ弱肉強食ノ慘狀ヲ奏スルニ至ルヘシ是ヲ以テ憲法ニ於テ司法ノ獨立ヲ保認シ人民ノ權利ヲシテ確乎不拔タラシメ若シ其權利牴觸諍訟ノ如キハ一ニ之ヲ公平無私不偏不黨ナル司法權ノ裁判ニ依ラシメ其自ラ裁判ヲ爲スカ如キハ敢テ國法ニ違反スル

モノトシ之ヲ禁スナリ特ニ其裁決ノ如キハ恐レ多クモ 天皇ノ御名ヲ以テ裁判官ノ宣告スル所ナリ

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔解釋〕 司法權即チ裁判ノ權利ハ 天皇ノ有シ給フ所ナレハ裁判所ハ法律ニ依照シ其裁判ヲ爲スモ固ト 天皇ノ代行ニ依リテ爲シタルモノナレハ 天皇ノ御名ヲ以テ之ヲ宣告スルナリ○〔構成〕トハ組立ニシテ裁判所ノ編制ヲ云フ

〔理由〕 司法權ヲ實行スル者ハ現ニ裁判官ナリ然ルニ 天皇ノ御名ニ依リ之ヲ宣告スル所以ノモノハ元來司法ノ大權ヲ有セラルハ 天皇ナリ故ニ裁判官ハ 天皇ノ御名ヲ以テ其權ヲ行ハサルヘカラス抑モ裁判ノ權ハ不羈獨立ニシテ他ヨリ牽制ヲ受クヘカラス故ニ司法權ハ國家ノ大權ヲ指揮シ給ヘル 天皇ノ握有シ給

フ所ニシテ又 天皇ノ御名ヲ以テ裁判官ノ行フモノナリ於是乎始メテ行政權ノ司法權ヲ掣肘スル弊害ヲ防遏スルコトヲ得ヘシ

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラ

ルルコトナシ 懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔解釋〕 裁判官ノ任命ハ明治二十年七月二十三日勅令第三十七號又官試験試補及見習規則ニ從フモノトス

第二項ハ裁判官ハ終身官ニシテ犯罪事件ニ依リ刑法ノ處分ヲ受ケタルカ又ハ官吏懲戒例ニ照シ其處分ヲ受ケタル場合ノ外ハ罷免セラル、コトナキヲ定メタルナリ○〔懲戒〕トハこらしめいましめるノ意義ニテ刑法上刑罰ノ目的トスル所モ既往ノ所爲ヲ懲ラ

シ將來ノ注意ヲ促スヲ云フ然ルニ刑罰ノ宣告ト云ヒ懲戒ト云ヒ
 テ其區別ヲ設ケタルハ官吏服務紀律ニ違犯シタルト刑法ノ罰條
 ニ違反シタルト區別セシカ爲メナリ其官吏服務紀律ニ違背シ
 處罰サレタルヲ懲戒ト云フ
(明治二十年七月二十九日勅令第三十九號參照)

〔理由〕 裁判官ヲ終身官ト爲シタル理由如何曰ク裁判官ノ轉免シ得
 ヘカヲサル事ハ佛語ニ之テ「いなりびりて」ト云フ則チ裁判官ハ
 終身職タリトノ意義ナリ此ノ特權ヲ裁判官ニ與フルハ裁判官ノ
 不羈獨立ニシテ其良心ノ誘ク所ニ從ヒ裁判ヲ爲サシメシカ爲メ
 ナリ若シ裁判官ヲシテ何時コテモ轉免シ得ヘキモノトセハ即チ
 裁判官ハ行政長官ノ意ニ隨ヒ之ヲ轉免シ得ヘキモノトセハ裁判
 官ハ其非職若クハ免職ト爲ランコトヲ恐レ或ハ不當ノ判決ヲ爲
 スヤモ知ルヘカヲス於是乎司法權ハ行政權ノ蹂躪スル所トナリ
 遂ニ人民ハ國家ノ裁判權ヲ尊重セサルニ至リ自ラ裁判ヲ爲ス者

チ生シ國家ノ大害ヲ醸生スヘキヲ以テ豫メ其原因ヲ防止シ即裁
 判官ヲ終身官ト爲シタル所以ナリ此ノ「いなりびりて」ニ付テハ
 佛國學者間ニハ大イナル反對說アルノミナラズ其反對說却テ勢
 カチ占ムルト雖モ今之ヲ反述スルハ本書ノ趣旨ニアラサレハ之
 ヲ略ス

第五十九條 裁判ノ對審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗

ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對
 審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

〔解釋〕 「裁判ノ對審」トハ公判開廷ノ場合ヲ云ヒ豫審廷ノ場合ヲ云フ
 コアテス「安寧」トハ安穩靜寧ヲ云フ即チ一國ノ無事ニシテ穩カチ
 ルヲ云フナリ秩序トハ事ノ次第順序アルヲ云フ
 〔理由〕 凡ソ裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開スルヲ以テ原則トス故ニ何
 人ニ限ラス法廷ニ入リテ其裁判ヲ傍聽スルコトヲ得ヘシ何ソカ

故ニ裁判ハ公開ヲ以テ原則ト爲スヤ曰ク是レ世人ヲ以テ裁判ノ公平ナル事ヲ知ラシメ益々裁判ノ尊嚴ヲ嵩メシカ爲メナリ夫ノ豫審ノ如キハ証據ノ聚集ニ止マリ特ニ秘密ノ性質ヲ有シ若シ之ヲ公開スルトキハ犯跡ヲ湮滅セシメ有罪ヲ免カレシメ國家ノ大害ヲ爲スヘキヲ以テ密行セサルヘカラスト雖モ公判ノ如キハ之ヲ秘密ニ爲スヘキ理由ヲ發見セサルナリ若シ秘密ニ裁判ヲ爲サシテ手人民ハ或ハ其判決ノ曲枉クラン乎ヲ疑ヒ遂ニ疑心確結シテ裁判ノ威嚴ヲ損スルニ至ル故ニ公判ハ何人モ之ヲ傍聽スルコトヲ許ス所以ナリ然レモ公開ヲ爲シ却テ公益ヲ害スヘキ場合ナシトセス仮令國事犯ノ被告事件ノ如キハ之ヲ公開シテ被告人ノ放言暴語ニ任スルトキハ國家ノ安寧秩序ヲ紊乱スルノ虞ナシトセス又猥褻姦淫重婚ノ被告事件ノ如キモ明ラニ其事實ヲ陳述セシムルトキハ風俗ヲ紊ルノ恐レアリ故ニ是等ノ弊害ノ生ス可キ

虞リアルヘキ場合ニ於テハ治罪法ノ明文ニ從ヒ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ其公開ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔解釋〕 司法權ハ裁判所之ヲ行フヲ以テ本則トスレトモ陸海軍ノ軍人軍屬ノ如キハ特別裁判所即チ軍法會議ニ於テ審理スヘキモノトス

〔理由〕 特別裁判所ヲ設ケタル理由ハ其裁判所ニ因リテ各々設置ノ理由ヲ異ニスルヲ以テ今一々之ヲ詳述センニハ數葉ノ能ク盡ス所ニアラス要スルニ普通ノ裁判官ヲシテ之ヲ審理セシムルモ容易ニ其事情ヲ得ル能ハサルカ或ハ之ヲ得ルトスルモ遲延ノ恐レアル或ハ特別法律ヲ適用スルヲ以テ特別ノ裁判官ヲ要スル場合ノ如キハ司法權ヲ離レ特別裁判所ヲシテ特別ノ裁判官ヲシテ之

ヲ審判セシムルナリ

第六十一條

行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

〔理由〕行政事件ニ關スル訴訟ハ司法裁判所ヲシテ之ヲ審判スルモ

其事情ヲ悉クスルヲ得ス徒ニ法理ニノミ依據シテ以テ判定ヲ爲シ實際ノ實情ヲ觀察セサルノ傾キアリ斯ノ如キハ其判決ノ遲延シテ事ノ回復スヘカラサル損害ヲ生スルハ勿論從テ施政上ニモ著シキ妨害ヲ與フルヲ以テ特ニ行政裁判所ヲ設ケ之ヲ審判セシムルナリ故ニ本條モ亦前條ト同シク司法權ヲ離レテ獨立ノ裁判權ヲ認ムルモノナリ

〔解釋〕「行政官廳ノ違法處分」トハ各省道廳府縣廳ノ法律若クハ行政規則ニ違反シタル處置ヲ云フ仮令ハ公用土地ニ上規則ニ違背シ

タル買上ヲ爲シタルカ如シ

第六章 會計

〔解釋〕「會計」トハ政府ノ歳入歳出ノ豫算決算并ニ其經費ニ充ツヘキ金額ノ收入及經費ノ支出ヲ云フ國家財政ノ事タル頗ル重大ナルモノニシテ一國政務ノ施行ヲ圓滑ナラシメ其治績ヲ奏セシムルモノハ政務分任ノ法整然トシテ秩序アリ有司吏員老鍊ニシテ智謀經驗ニ富ムニ基テ歸スルト雖モ其財政ノ整理モ亦與テ大ニ力アリト謂ハサルヘカラス如何ニ專政機關ノ秩序アルモ如何ニ有司吏員ノ智謀經驗アルモ若シ其財政ニシテ紛乱混雜シテ整理スル所ナカリセハ其機關モ活動スルニ由ナカルヘシ吏員モ亦力ヲ用フルニ所ナカルヘシ夫レ然リ會計ノ國政ニ於ケル關係ヤ重大ナルモノニシテ若シ一步ヲ誤レハ則チ國內ノ生産ヲ萎靡不振ノ域ニ擠シ民生ヲ塗炭ノ苦境ニ陷ル、ノ恐ルヘキ結果ヲ生スルモ

ノナリ故ニ法律ヲ以テ別ニ會計法ヲ規定スト雖モ亦其大綱要領ヲ舉テ之ヲ憲法ニ掲ケ敢テ荷クモスル所ナカラシムル所以ナリ

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

〔解釋〕「租稅トハ政府ノ經費ヲ支辨スル爲メニ臣民ヲシテ金錢物件ヲ拂ハシムルヲ云フ新ニ租稅ヲ人民ニ課スルニ必ス帝國議會ニ提出シ其協贊ヲ得サルヘカラス稅率ヲ變更スル場合ニ於テモ亦然リ所謂稅率トハ財産ニ對スル租稅ノ比例ヲ云フ例ハ地租ハ

地價ノ百分ノ二半ヲ課スルモノナリ此百分二半ト云フハ即チ租稅ニシテ地租ト地價トノ比例ナリ今政府ニ於テ此比例ヲ變更シテ百分ノ三ト爲サンカ必ス帝國議會ノ協贊ヲ經サルヘカラス故ニ議會ニ於テ之ニ協贊ヲ與ヘスンハ其稅率ハ之ヲ變更スルコト能ハサルモノトス然レモ行政上ノ手数料其他ノ收納金ハ其協贊ヲ經ルニ及ハス行政上ノ手数料トハ例ハ地券書換手数料ノ如キヲ云ヒ其他ノ收納金トハ臨時政府ノ收納ト爲リタル金額ニテ豫算外ノ收納ニ關ルモノヲ云フ

又國債ヲ起スコト及豫算ニ定メタルモノ、帝國議會ノ協贊ヲ經ヘキハ勿論ナレモ此外ノモノト雖モ國庫ノ負擔ト爲ルヘキ契約ヲ爲ストキ例ハ某會社ヲ保護センカ爲メニ年利若干マテヲ保證スルト云フカ如キ契約ヲ爲スコト亦議會ノ協贊ニ必要トス

〔理由〕凡ソ租稅ヲ課シ若クハ稅率ヲ變更スルカ如ク人民ニ負擔ヲ

課シ又ハ其負擔ヲ重カラシムルモノハ人民ノ休戚ニ關シ國家ノ盛衰ニモ關係スル重大ノ事柄ナルヲ以テ必ス議會ノ協賛ヲ要スト爲シタルナリ然レモ行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ租稅ノ性質ヲ有スルモノニアラス是ヲ以テ此等ノモノハ敢テ議會ノ協賛ヲ經ルニ及ハス全ク行政上ノ便宜ニ任スヘキモノト爲シタルナリ

又國庫ノ負擔ニ歸スヘキ契約ヲ當該官員ノ隨意ニ放任スルトキハ吏員ハ如何ナル契約ヲ結ビテ政府ノ負擔ヲ重カラシメ其結果國家ノ財政ヲ紛乱セシムルニ至ランモ知ルヘカラス故ニ是亦議會ノ協賛ヲ要スルモノト爲シタルナリ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

〔解釋〕 本條ハ現行租稅ノ處分法ヲ定メタルモノニシテ更ニ法律ヲ

以テ之ヲ改メサル限リハ皆現行ノ儘ニテ之ヲ徵收スヘク特ニ帝國議會ノ承諾ヲ要スルコトナシ〔現行〕トハ此憲法ヲ實施スルニ至ル時ニ行フ所ノ租稅法ヲ云フナリ

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

〔解釋〕 「歲出」トハ政府ノ經費ニシテ一年度内ニ政府カ費ス所ノ費用ヲ云ヒ「歲入」トハ一年度内ニ政府ニ收入スヘキ金額ヲ云フ此歲出歲入ハ必ス豫算ニ依リテ毎年之ヲ帝國議會ニ差出サル、ヘカラス「豫算」トハ收入支出ノ見積計算ヲ云フ

歲出ハ總テ豫算ニ準スヘキモノナリト雖モ或ハ不時ノ事件ニ依リ豫算外ノ支出ヲ要スルコトアリ或ハ豫算ニ超過シタル費用ヲ要

スルコトアリ是等ノ場合ニ於テハ豫備費ヨリ其費用ヲ支出シ後日
議會ノ承諾ヲ求ムヘキモノトス若シ議會ニ於テ其支出ヲ認メス
之ニ承諾ヲ與サルハ其當該ノ國務大臣ニ於テ其責任ヲ負フモ
ノトス

〔理由〕 國家ノ歳出入ヲ豫算ト爲シ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキモノト
爲シタルハ是國家財政ノ主要ナルモノニシテ若シ豫算ヲ以テ議
會ニ提出スルコトナクハ議會ハ全ク財政權ヲ有セサルニ等シ
カノミナラス豫算ヲ以テ其収支ヲ豫定スルコトナクハ國務大臣
ハ財政ニ關シ如何ナル事ヲモ爲シ得ヘク遂ニハ國家人民ヲ傷害
スルニ至ルヘケレハナリ其豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ
生シタル支出ヲ議會ニ提出シ其承諾ヲ要スト爲シタル所以モ亦
同一ノ理ニ基キタルナリ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

〔理由〕 歳計豫算ハ必ス先ツ衆議院ニ提出スヘキモノト爲シタルハ
何故ソヤ凡テ議案ハ兩院ノ何レニ提出スルモ自由ニシテ法律ハ
之ヲ制限セスト雖モ豫算案ハ直接ニ人民ノ義務ニ關係スルヲ以
テ先ツ衆議院ニ提出シ一般人民ノ自ラ選舉シタル議員ノ議ニ付
シ其意見ヲ聞カサル可カラス是本條ノ規定アル所以ナリ若然ラ
ズシテ一般ノ議案ト同シク何レノ議院ニ提出スルモ自由ナリト
スルトキハ政府ハ先ツ貴族院ニ提出シ時勢民情ニ直接ノ關係ナ
キ議員ノ決議ヲ經タル後之ヲ衆議院ニ送付スルコトアルヘシ而シ
テ若シ其議決ノ時勢ニ適合セス民情ニ背馳スル如キコトアラハ其
議事ノ不穩ニ涉リ遂ニハ不適當ナル決議ヲ爲サ、ルヘカラサル
ニ至ルコトアルヘシ本條ノ先ツ衆議院ニ提出スヘシト爲シタルハ
蓋シ之ヲ慮リタルモノナリ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出

シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

〔解釋〕 本條ハ皇室ノ經費ニ付キ例外ノ規則ヲ設ケタルモノナリ即チ現在ノ定額ニ依リテ帝國議會ノ協賛ヲ要スル場合ニ於テハ亦必ス議會ノ協賛ヲ經サシ可カラズ

〔理由〕 皇室經費ト雖モ其他ノ經費ト同シク毎年議會ノ協賛ヲ經ヘキモノト爲セハ或ハ非常ニ其定額ヲ減シ爲シ皇室ノ尊嚴ヲ保ツト能ハサルニ至ラシムルコトキテ保セス伍合給ラストスルモ之ヲ減スルニ當リテハ或ハ 天皇ノ徳性ヲ謫シ其神聖ヲ侵スノ恐ナシトセス是其經費ヲ確定ノモノト爲シ之ヲ減セシメサル所以ナリ然リト雖モ其増額ヲナスニ當リテハ更ニ國庫ノ負擔ヲ重カラシメ又人民ノ休戚ニ關スルヲ以テ議會ノ協賛ヲ要スト爲シタルナリ

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ

由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

〔解釋〕「憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出ト」ハ例ヘハ 天皇ハ陸海軍ヲ編制シ及常備兵額ヲ定ムルノ權ヲ有シ玉フニ依リ其編制上及常備兵ヲ給養スルニ付キ經費ヲ要ス此經費ハ即チ憲法上ノ大權ニ基ツケル歳出ナリ法律ノ結果ニ由リ政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ例ヘハ政府ハ新ニ地券ヲ改正スルノ法律ヲ發布シタリト假定セヨ此法律ノ當然ノ結果トシテ政府ハ新地券ヲ製造スルノ費用ヲ要スヘシ是即チ法律ノ結果ニ由レル歳出ナリ又法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ法律ヲ以テ特ニ政府ノ負擔タルコトヲ指定シタル歳出ヲ云フ是等ノ歳出ハ毎年必ス豫算ヲ以テ議會ノ協賛ヲ經ヘキモノナリト雖モ議會ハ隨意ニ之ヲ廢除シ又ハ

削減スルヲ得ス之ヲ廢除シ又ハ削除セシニハ必ス政府ノ同意ナルヲ要ス

〔理由〕 何トナレハ議會ニ於テ若シ之ヲ廢除削減スルモ憲法上ノ大權モ之ヲ施行スルニ由ナリ法律モ之ヲ執行スルヲ能ハサルニ至ル其結果憲法ヲ變更シ若クハ法律ヲ廢止スルモノナレハナリ

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

〔解釋〕 繼續費トハ毎年繼續シテ支出スル所ノ經費ヲ云フ例ハハ政府ハ五十年ヲ期シテ或ル都府ノ市區ヲ改正スル場合ニ於テ其年限間五十萬圓ツ、支出ヲ爲スカ如キ是ナリ此繼續費ハ一ツ七議會ノ協賛ヲ經タルモハ更ニ年々其協賛ヲ經ルヲ要セサルモノトス

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外

ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

〔解釋〕 豫備費ハ本條ニ定メタル如ク之ヲ二種ニ大別ス

第一 第一豫備費○第一豫備費トハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノニシテ例ヘハ某省ニ於テ俸給費ヲ十五萬圓ト見積リタルニ實際二十萬圓ヲ要シタリ此場合ニ於テ其不足額五萬圓ハ之ヲ第一豫備費中ヨリ支出スルモノトス

第二 第二豫備費○第二豫備費トハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノヲ云フ例ヘハ事變ニ由リテ政府ハ船舶ヲ借入レタリ此場合ニ於テ其借入レノ費用ハ豫算外ニ關ルモノナリ故ニ其費用ヲ支出セシカ爲ニハ豫備費ヲ使用セサルヘカラス之ヲ第二豫備費トス

右二種ノ豫備費ハ其總額ヲ見積リ豫算中ニ其項目ヲ設ケ置クヘキモノトス

〔理由〕豫備費ノ必要ナルコトハ敢テ説明ヲ俟タズシテ明ナリ若シ之ヲ設クルコトナクハ豫算超過ノ費用又ハ豫算外ノ費用ハ國債ヲ募リテ之ヲ支出スルノ外ナカルヘシ斯クテハ政府ハ其國債ノ總集并ニ利子等ニ金額ヲ要スヘク其財政上甚ダ不利トスル所ナリ故ニ豫備費ハ議會ニ於テ之ヲ削除スルコトヲ得サルモノトス

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内
外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ
勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾
ヲ求ムルヲ要ス

〔解釋〕例ヘハ内亂若クハ外患ニ依リ非常莫大ノ費用ヲ要シ豫備費
ヲ以テ之ヲ支辨スルコト足ラス又議會ヲ召集シテ之ヲ議スルコト
得サル場合ニ於テ勅令ヲ以テ國債ヲ募集シ或ハ紙幣ヲ發行スル

等ノ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得然レモ此場合ニ於テハ後日議會
ニ提出シ其承諾ヲ求メサルヘカラス而シテ議會ニ於テ若クハ承
諾セサルハ之ヲ如何ニスヘキカ余輩ノ解スル所ヲ以テセハ本
條ノ勅令ハ第八條ノ法律ニ代ルヘキ性質ヲ有スルモノナリト雖
モ其効力ハ一時限ノモノナルカ故ニ該條第二項ハ之ニ適用スル
コト能ハス必ス其副署シタル國務大臣ニ於テ其責ニ當ルモノナリ
ト信ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セシ又ハ豫算成立ニ至ラ
サルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

〔解釋〕帝國議會ニ於テ其議定スヘキ豫算ヲ議定セシ又政府ニ於テ
豫算ヲ調製スルコト能ハサル場合ニハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘキ
モノトス

〔理由〕本條ノ規則ハ止ヲ得サルニ出タルノ處分ニシテ若シ豫算ヲ

議定セス又ハ豫算成立セサル場合ニ政府ハ其収支ヲ成シ得ヘカ
ラサルモノトセハ忽チ其政務ノ執行ニ障害ヲ來タスヘシ而シテ
其前年度ノ豫算ヲ施行セシメ政府ノ隨意ニ決定スル所ニ任セサ
ルハ蓋シ政府ノ隨意ニ決定セシムルハ大ニ弊害ヲ生スルノ恐
アルヲ以テナリ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ

政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

〔解釋〕「歳出歳入ノ決算」下ハ政府カ一年度内ニ於テ收納シタル金額
ト其支出シタル金額トヲ計算シ之ヲ比較シタルモノヲ云フ此決
算ハ會計検査院ニ検査ヲ經テ確定ノモノトナシ其検査報告書ヲ
添ヘテ議會ニ提出シ其檢定ヲ得ヘキモノトス
會計検査院ハ政府ノ収支支出其所有ノ金錢物件其他總テ國庫ノ

會計ニ關スル事件ヲ検査監督スルノ職務ヲ有スルモノトス然シ
テ其組織及權限ハ別ニ法律ヲ以テ定ムルモノトシタリ

〔理由〕帝國議會ノ有スル財政權ハ實ニ歳出入ノ豫算ヲ議定スルニ
止マラス其實際収支シタル所ノ結果ヲ檢案セサルヘカラス然ラ
サレハ其財政權ハ殆ント無効ニ歸スヘシ何トナレハ其制ニ當リ
テ豫算ヲ決定スルモ政府ハ隨意ニ収支シ得ヘキモノトセハ其豫
算ニ反シテ會計ヲ處理スルヲ得ヘク豫算ハ實際唯無用ノ手續
ニ過キサルニ至ルヘケレハナリ然レハ決算ノ檢案ハ實際甚ダ困
難ナルモノニシテ專務ノ官署ヲシテ之ヲ検査セシムルニ非ス
ハ到底精確ナルヲ能ハス隨テ其檢案モ亦完全ナルヲ得ス是其決
算ハ豫メ會計検査院ヲシテ検査セシムル所以ナリ
會計検査院ノ職權ハ政府ノ會計ヲ検査監督スルカ故ニ獨立公平
ニシテ毫モ偏倚スル所ナキヲ要ス若シ國務大臣ノ鼻息ヲ伺ヒ偏

私ノ處分ヲ爲スカ如キアラハ國家ノ不幸ト謂ハサルヘカラス故
ニ歐米各國ノ制ニヨレハ會計検査官ハ之ヲ終身官ト爲シ不羈獨
立ノ權ヲ與ヘ政府ノ隨意ニ免職シ得ヘカラサルモノト爲セリ本
條ニ於テ其組織權限ハ別ニ法律ニ依リテ定ムヘキモノトナシ第
十條ノ例ニ由ラサリシモ亦蓋シ之カ爲メノミ

第七章 補則

〔解釋〕 補則トハ變通ノ場合ニ適用センカ爲メニ定ムル所ノ補充規
則ヲ云フ故ニ立法者カ豫メ本則ニ不完全若クハ瑕瑾ノアルコト
ヲ知リツ、補則ヲ設ケタルコアラス

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅
命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ
此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ
非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ

得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

〔解釋〕 此憲法ノ改正ヲ爲スヘキ必要ノ生シタルトキハ勅命ヲ以テ
議案ヲ帝國議會ニ下付シ各議院ノ議員其三分ノ二以上ノ出席ニ
於テ之ヲ議事ニ付シ又其出席員三分ノ二以上ノ多數決ヲ得ルコ
アラサレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス故ニ其出席員三分ノ二以上
ノ贊成ヲ得サレハ廢案ニ屬スヘキモノトス

〔理由〕 余輩カ屢々述フル如ク憲法ハ萬法ノ主宰一國ノ根本法ナリ
一國ノ組織之ニ依テ鞏固ナルヘク人民ノ權利之ニ依テ安固ナリ
斯ノ如キ至重至大ナル法典ナレハ容易ニ之カ變更ヲ爲スヘキモ
ノコアラス若シ偶々其改正ノ必要ヲ認メリトモ念ノ上ニモ猶ホ
念ヲ入レ輕忽ニ改正等ニ着手セサルヘカラサルナリ若シ猥リニ
之ヲ改正シ得ルモントセンカ一國ノ基礎常ニ浮動ニ在ルモノト
謂ハサルヲ得ス故ニ此ノ重大ナル憲法ノ改正案ハ其發案權ヲ議

員ニ與ヘスシテ勅命ニ依ル所以ナリ然レモ議會ハ憲法改正ノ上
奏建議ハ之ヲ爲シ得ヘキモノトス

縱令勅命ニ依リテ憲法改正案ヲ議會ニ付セラル、モ右ニ述フル
如ク憲法ノ改正ハ重大ナルコトナレハ少數議員ニテ之ヲ議決セ
シムヘカラサルヲ以テ各議院其總議員ノ三分ノ二以上出席スル
コアラサレハ議事ヲ開クヲ得ス加之ヲラス縱令三分ノ二以上ノ
出席議員アルモ其出席議員三分ノ二以上ノ同意贊成スルコアラ
サレハ改正ノ議決ヲ爲スヲ得サルナリ是レ憲法ノ改正ハ重大ナ
ルヲ以テ鄭重ヲ主トスルナリ

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

〔解釋〕 皇室典範ハ十二章六十二條ヲ以テ成立シ皇室ニ關スル事ノ
ミチ規定ス今茲ニ詳述スルノ必要ナキヲ以テ之ヲ略ス

〔理由〕 皇室典範ハ皇室ニ關スル事ノミチ規定スルモノナレハ其改

正モ帝國議會ノ協賛ヲ得ルヲ要セサルナリ又臣民ハ皇室ノ事ニ
關シ吻ヲ容ルヘキモノニアラサルナリ

然レモ此ノ憲法ハ一國ノ基礎法ナレハ皇室モ之ニ違背シ給フヘ
カラス故ニ皇室典範ニ於テモ此ノ憲法ニ違背スル規定ヲ爲スコ
トヲ得スト規定セラレタルナリ

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコト

ヲ得ス

〔解釋〕 攝政ハ 天皇未タ成年ニ爲ラセラルトキ又ハ 天皇久

キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラシ給フコト能サルトキニ皇族
會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ之ヲ置カル、ナリ而シテ攝政ハ 天
皇ノ御名ヲ以テ國家ノ萬機ヲ行フモノナリ

〔理由〕 憲法及皇室典範ノ改正ハ 天皇ノ發案ニ係リ事頗ル重大ナ

ルヲ以テ 天皇ノ御幼冲ナルトキ若クハ 天皇萬機ヲ親ヲシ給
フヲ得サル故障ニ渡セラル、場合ニ於テ其改正ニ着手スルヲ得
サルナリ若シ本條ノ制限ナクハ攝政其慾ヲ逞フニ皇室ニ對シ如
何ナル不敬ノ事ヲ爲スヤ知ルヘカラス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ハラヌ
此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス
歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條
ノ例ニ依ル

〔理由〕 憲法ハ法律ノ法律ナリ故ニ憲法ニ違背セル法律規則命令ハ
其効力ナキハ勿論ナリト雖モ此ノ憲法ノ發布ト共ニ舊來ノ諸法
律ハ悉ク廢止ニ歸スヘキ理由ナシ故ニ苟モ此ノ憲法ト撞着矛盾
セサル限りハ其法律規則命令ハ其効力ヲ有シ從テ人民ハ之ヲ遵
奉スヘキノ義務アルモノトス

然レモ歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ此ノ憲法
ノ効力ヲ顯ハヌ可キ時期即チ帝國議會開設ノ時ニ於テハ實ニ議
會ノ協賛ヲ要セサレハ憲法ノ明文ニ違背スヘシト雖モ此ノ場合
ハ一ニ議會ノ協賛ニ依ルニ及ハス議會ハ必ス政府ノ同意ヲ得ル
ニアラザレハ之ヲ廢棄シ又ハ削除スルコトヲ得サルナリ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
樞密院議長 伯爵 伊藤博文
外務大臣 伯爵 大隈重信
海軍大臣 伯爵 西郷從道
農商務大臣 伯爵 井上馨
司法大臣 伯爵 山田顯義
大藏大臣兼内務大臣 伯爵 松方正義
陸軍大臣 伯爵 大山巖

文部大臣子爵森 有禮
逓信大臣子爵板本武揚

議院法

〔解釋〕 余輩ハ今茲ニ議事院ノ必要ナル事並ニ議事院ハ一院ヲ可トスルヤ將タ二院ヲ可トスルヤヲ説述セサルヘカラスト雖モ此ノ事タル既ニ憲法ニ於テ論述シタル所ナレハ茲ニ贅セス

第一章

帝國議會ノ召集成立及開會

〔解釋〕「召集」トハ勅命ヲ以テ帝國議會ノ議員ヲ各議院ニ集會セシムルヲ云フ「成立」トハ各議院ノ議員勅命ノ召集ニ應シ各其議院ニ集會シ議長副議長ノ各候補者ヲ選舉シ勅任ヲ得タルカ或ハ勅旨ニ依リ議長副議長ノ宣下アリタル後即チ議院ヲ形ツクリタル場合ヲ云フ「開會」トハ開院式ヲ行ヒタル後議長ヲ設ケ議事ニ取掛リタル場合ヲ云フ

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

〔解釋〕帝國議會即チ貴族院及衆議院ノ議員ヲ召集スル勅諭ハ集會ノ期日ヨリ四十日前ニ發布スヘキモノトス

〔理由〕議員召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヨリ四十日前ニ發布スヘキコトヲ規定シタルモノハ何ソヤ曰ク議會ハ毎年何月ニ於テ開設シラル、ヤハ幕ホ豫定アルヘシト雖モ政府カ發案ノ都合ニ依リ豫メ其時期ヲ確定スルヲ得ス故ニ開會ノ期日ハ特ニ定メサリキ況ンヤ臨時會ノ場合ニ於ケルヲ若シ不時ニ召集ノ勅諭ヲ發セシテ手各議員ハ他ノ事業ニ從事シツ、アルヲ以テ俄ニ其事業ヲ抛擲シ召集ニ應ヒサルヘカラス斯ノ如キトキハ幾多ノ損害ヲ被ムラサルヘカラサルヲ以テ已ムヲ得ス議會ニ欠席シ或ハ開會期日ヨリ數日若シハ十數日後ニ出席スルニ至ルヘシ若シ夫レ斯ノ如キ事故アル議員一人ニシテ止マテハ可ナリト雖モ數十百人ノ議員亦同シク急遽ノ召集ノ爲メ直ニ勅諭ニ應スルコトヲ得サル者ナ

キヲ保セス果シテ然ラハ出席議員少數ニシテ法定ノ議員ヲ待テ開會シ得ヘキヤ是亦圖ルヘカラス夫ノ國家ノ危急存亡ナル秋ノ如キハ素ヨリ例外ナリト雖モ通常ノ場合ニ於テハ其行裝ヲ調フル爲メニ幾許ノ猶豫期日ヲ與ヘサルヘカラス況ンヤ其行程ノ遠近ニ應シタル猶豫期日ニ於テチヤ是レ本條ニ於テ召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヨリ四十日前ニ發布スヘキコトヲ規定シタル所以ナリ

〔問〕本條四十日ノ猶豫期限ハ路程ノ猶豫期限モ包含スルヤ否ヤ

〔答〕四十日ノ猶豫期限ハ全國一般ニ通シタル畫一ノ期限ナリト解セサルヲ得ス何トナレハ他ノ條ニ於テ路程ノ遠近ニ對シ猶豫期限ヲ與フヘキノ明文ナケレハナリ故ニ其住所ノ遠近ニ拘ハラス勅諭ニ指定シタル期日ニハ必ス集會セサルヘカラス

〔問〕召集ノ勅諭若シ集會ノ期日ヨリ四十日以内ニ發セラレタルト

キ法定ノ議員數ヲ得テ議事ヲ開キタル場合ニ於テ其議決ハ無効ナリヤ將タ有効ナリヤ

〔答〕召集ノ勅諭カ集會ノ期日ヨリ四十日以内ニ發布セラル、モ議員悉ク集會シ議決シタル場合ニ於テハ其議事ハ素ヨリ有効ナリト雖モ若シ一人若クハ數人ノ議員カ召集ノ勅諭發布ヨリ四十日以内ニ集會シタルモ議事ニ與カルコトヲ得サリシ場合ニ於テハ其議決ニ對シ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘシト信スルナリ正當ノ事故ニテ議員ノ缺席シタル場合ハ格別ナリト雖モ右ノ場合ノ如キハ不正當ノ事故ニテ議員ヲシテ出席シ得サラシメタルモノナリ即チ縱令議事開會ノ議員數ヲ得タルニモセヨ其議會ハ元來完全ナル議會ト謂フヲ得サルモノナリ果シテ然ラハ其不完全ナル議會ニ於テ議決シタル議事ノ無効タルコトハ論ヲ俟タサル所ナリ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

〔解釋〕召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニハ貴族院議員ハ其院ノ會堂ニ又衆議院議員ハ其院ノ會堂ニ集會セサルヘカラス

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシム其ノ中ヨリ勅任スヘシ

〔解釋〕候補者トハ空位缺席ヲ補フ可キ推薦者ヲ云フ

〔理由〕抑モ衆議院ノ議長副議長ハ其議員中ヨリ互選セシムルヲ以テ原則トス然ルニ本條ニ於テ議長副議長ヲ勅選候補者ヲ選出セシムルニモセヨト定メラレタルハ蓋シ特別ノ理由ナカレハカラス或ハ議長副議長ハ其任務ノ重大ナルヲ以テ候補者ヲ選出セシムルハ勅選ヲ要ストノ理由ニ基クモノナランカ余蓋シ考フル所ニ依レハ實ニ右ノ一理由ノミニ止マラス左ノ理由ハ主タルモノ

ナルコトヲ信スルナリ則チ我カ帝國議會ハ 天皇ノ特ニ開カセ
給フ所ノモノナレハ今之ヲ全ク議會ノ自由ニ任スルトキハ或ハ
天皇ノ大御心ニ適ハサル者ヲ以テ其院ヲ支配スルカ如キ不都合
ヲ生スルコト無キニシモアヲサルヲ以テナリ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一
名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

〔解釋〕 貴族院及衆議院ハ抽籤法ヲ以テ各其總議員ヲ數部ニ分割シ
其部中ニ於テ部長ヲ互選セシム是レ議員ノ取締上及其他議事取
纏メノ場合ニ於テ必要アレハナリ

〔理由〕 各議院ノ議員ヲ分割スルニ各自ノ自由結合ニ任セスシテ特
ニ抽籤法ヲ用サタルハ何ソヤ蓋シ抽籤法ヲ以テ議員ヲ部分スル
トキハ素ヨリ其政黨ヲ異ニスル者ノ組合ヲ爲スコトアルヘシ然
ルトキハ或ハ政黨ノ軋轢ヲ未明ニ防キ若クハ之ヲ調和スルノ効

アリ而シテ若シ政黨思想ニ依リテ分割スルトキハ爲メニ偏重ノ
部分クヲ爲シ或ハ組合ノ結合上ニ於テ紛擾ヲ來タスノ恐アリ况
ンヤ此ノ組合ハ其主義ノ同一ナル者ヲ結合スル等ノ必要ナキニ
於テオヤ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ
兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

〔解釋〕 各議院ノ議長副議長等ノ勅選ヲ終リタル後ニ於テ帝國議會
開會ノ日ノ定メラレ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ執
行セラル、ナリ

〔理由〕 開院式ヲ貴族院ニ於テ之ヲ執行シ各議院ニ於テ各別ニ之ヲ
執行セサル所以ノモノハ帝國議會ハ兩院ヲ以テ組織シ貴族院及
衆議院ハ其一部分タルニ過キサレハ各別ニ其開院式ヲ執行スル
ノ理由ナキニ由ル故ニ貴族院ニ於テ開院式ヲ舉行スルモ單ニ貴

族院ノ開院式ニアラスヨテ帝國議會即チ貴族院及衆議院ノ開院式ナリ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

〔解釋〕帝國議會ノ開院式ノ場合ニ於テ議長ヲ要スルトキハ貴族院ノ議長ハ其席ニ就クヘキコトヲ定メタリ是レ貴族院議長ハ其席次衆議院議長ノ上ニ位スルヲ以テナリ

第二章 議長書記官及經費

〔解釋〕本章ハ各議院ノ議長副議長書記官及各議院ノ經費支拂ノ事ヲ規定シタルモノナリ

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

〔解釋〕貴族院及衆議院ノ議長副議長ハ各々一人ナリトス
〔理由〕凡ソ集合体ニハ之ヲ統治スヘキ主長ヲカクルヘカラス若シ夫レ之ヲ統治スヘキ者ナキトキハ支離分裂シテ其体ヲ具フルコト

能ハサルヘシ夫レ然リ議院モ一ノ集合体ナルヲ以テ之ヲ統轄ス可キ主長ナカルヘカラス是レ各議院ニ議長ヲ設クル所以ナリ而シテ議長時ニ或ハ疾病其他ノ事故ニヨリ議會ニ缺席スルコトナキヲ保セス此ノ場合ニ於テハ直ニ代リテ議院ヲ統轄シ整理スヘキ者ヲ定メ置カサレハ不都合ヲ生スルコト少ナカラス是レ豫備員トシテ副議長ヲ設クル所以ナリ然レ且副議長亦疾病其他ノ事故ニ依リ欠席スルコトナキニアラスト雖モ斯ノ如ク順次其缺席者ヲ豫想スルトキハ際限アルヘカラサルヲ以テ是等ノ場合ニ於テハ其必要ニ際シ假議長ヲ選舉スヘキモノトス尤モ勅選ヲ要セサルナリ○議長一人ト爲シタル理由ハ主長其人アルトキハ或ハ互ニ其意見ヲ異ニシ却テ統御上ニ於テ紛擾ヲ醸生スヘケレハナリ

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

〔理由〕衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ其自己ノ議員タル資格ノ期限ニ依ルヘキモノトス何トナンハ其議長若クハ副議長ニ選舉セラレ勅任ヲ受ケタル所以ノモノハ其議員タルノ資格ヲ有スレハナリ故ニ其議員タル資格ノ消滅シタルトキハ從テ議長副議長タルノ資格モ亦當然消滅スヘキモノトス

若シ又議會ノ解散ヲ命セラレタル場合ハ議長副議長モ亦其ニ其資格ヲ失フヘシ○議長副議長ノ任期チ一年若クハ二年ト爲サスシテ議員ノ任期ト同シク四ケ年ト爲シタルモノハ再三選舉ノ手續ヲ省キシノミナラス又僅々四ケ年ニ於テ之ヲ改選スヘキ必要ヲ認メサルニ依ル

又議長副議長ノ補缺選舉ニ依リ勅任セラレタル者固ト議員ノ補缺選舉ニ依リテ議員ニ選舉セラレタル者ナルトキハ其議長若クハ副議長タル可キ任期ハ前任議長若クハ副議長ノ任期ヲ繼承スルニアラヌト前任議員ノ任期ニ依ルヘキモノトス然レモ衆議院ハ四ケ年ニシテ改選更迭スヘキ者トセハ是等ノ疑問ハ敢テ必要ナラサルヘシ

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ闕位ト

ナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

〔解釋〕衆議院ノ議長副議長若シ辭職又ハ其他ノ事故ニ依リ闕位ト爲リタルトキ其闕位ヲ補ヒタル繼任者ハ前任議長若クハ副議長ノ任期ニ依ルヘキモノトス然レモ衆議院ノ解散ヲ命セラレタル後ニ於テ更ニ議會ヲ組織シタル場合ハ前任者ノ任期ヲ繼承スルコトヲシテ議員ノ任期ナル四ケ年ノ期限ニ從フヘキモノトス是レ解散後ノ議會ハ前議會トハ全ク別物ナレハナリ

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

〔解釋〕 本條ハ各議院ノ議長ノ職務權限ヲ定メラレタルモノナリ○
 〔議院ノ秩序ヲ保持ス〕トハ議院ノ安寧ヲ保護シ議院若クハ議員ノ
 品格ヲ失却セサランコトニ注意スルヲ云フ故ニ議員若シ鹿暴過
 激ナルトキハ之ヲ制止シ院内ノ紀律ヲ正フシ或ハ之ニ從ハサル
 トキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ〔第十七章及第十八章ノ解
 釋ヲ見ルヘシ〕○〔議事ヲ整理シトハ議員互ニ論難駁撃シ議事ノ紛
 擾ニ至ラサランメシ〕○〔議事ヲ設ケ議事ヲ整頓處理スルヲ云
 フ故ニ議長ハ議員ノ言論ニシテ議會ノ紛擾ヲ醸スヘキ恐レアル
 トキハ其發言ヲ停止スルコトヲ得ヘシ○院外ニ對シ議院ヲ代表
 ス〕トハ凡テ議院ノ資格ヲ以テ院外ニ對スルトキハ議長ノ名義ヲ
 以テ其院ヲ代表スルヲ云フ故ニ各議院ヨリ上奏建議スルニハ必
 ス議長ノ名ヲ以テ之ヲ爲スナリ

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

〔解釋〕 議長ハ議院ノ代表者ニシテ其院ヲ管理スヘキ職務ヲ負ヘリ
 故ニ苟モ議院ノ存スル間ハ其職務ヲ尽サ、ルヘカラス唯其開會
 ノ場合ニ於テ議事ヲ整理スヘキノミニ止マラサルナリ然レモ其
 閉會ノ間ハ議員悉ク歸休セルヲ以テ其事務ナキカ如シト雖モ議
 院法第二十五條ノ場合ノ如キハ常任委員會ノ開設アルヲ以テ議
 長ノ出席スヘキ必要アルコトアルヘシ又否ラサルモ其閉會ノ場
 合ハ必スシモ事務ヲシト云フヲ得サルヘシ

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコト

ヲ得但シ表決ノ數ニ預カラズ
 〔解釋〕 常任委員會ハ議會閉會ノ間特ニ議案ノ審査ヲ爲サシメ或ハ
 政府ニ於テ緊急必要ノ事件アリテ議院ヲ召集セント欲スルモ其
 時間ナクシテ之ヲ召集スルヲ得サル場合ニ於テ其協賛ヲ得ンカ
 爲メニ設クルモノナリ〔特別委員會〕ハ或ル特別ノ事件ヲ審査セシ

メソカ爲メニ一時開設スルヲ云フ

〔理由〕 議長ハ是等ノ委員會ニ出席シテ發言スルノ特權ヲ有セリ是
レ議長ハ議院ノ解散セサル限リハ其院ヲ管理スヘキ職務ヲ有ス
ルヲ以テ此ノ特權ヲ與ヘタルナリ然レハ議長ハ委員タル特別ノ
資格ヲ有セサルヲ以テ其投票決議ノ數ニ預カルヲ得サルナリ

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

〔解釋〕 各議院ノ議長疾病其他ノ事故アルトキハ副議長之ニ代リテ
其事務ヲ處理スルナリ是レ副議長ヲ設クル所以ニシテ又其補員
タル所以ナリトス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ
選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

〔解釋〕 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ疾病其他己ムヲ得サル事故アリテ
其職務ヲ親ヲスルヲ得サルトキハ假議長ヲ選舉シ其時限リ

議長ノ職務ヲ代行セシムルナリ抑モ假議長ハ議長副議長俱ニ不
時ノ故障ニ依リ其職務ヲ執ル能ハサルカ如キ臨時緊急ノ場合ニ
於テ之ヲ選舉シ一時議長ノ職務ヲ代理セシムルナリ
故ニ假議長ハ假設ノモノニシテ勅選ヲ要スヘキモノニアラサル
ナリ然レハ其職務執行中ハ議長ト同一ノ權利ヲ有シ從テ其爲シ
タル處置ハ素ヨリ有効ナリトス

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期满限ニ達スルモ後任者ノ勅
任セララル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

〔解釋〕 貴族院及衆議院ノ議長副議長俱ニ任期满チ其議員タルノ資
格ヲ失却スルニ至リタルモ其次ノ議員改選セラレ更ニ議院ヲ組
織シ第三條ノ規則ニ從ヒ次會ノ議長副議長勅選セラル、ニ至ル
マテハ仍ホ繼續シテ其議長副議長ノ職務ヲ行フヘキモノトス然
レハ本條ニハ「任期满限ニ達スル」云々ト記スルカ故ニ衆議院ノ解

散セラレタル場合ニ於テハ其議長副議長ハ其職務ヲ繼續スルニ及ハサルモノトス

〔理由〕議員ノ資格既ニ失却シ議長副議長ノ職務既ニ終期ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテ仍ホ其職務ヲ繼續スルヲ要シタルモノハ何故シヤ議員ハ既ニ資格ヲ失フモ帝國議會ハ決シテ消滅ニ歸シタルモノト謂フヘカラス帝國議會ニシテ存在スルモノナラハ則チ必ス其議長タルモノナカルヘカラス然ルニ若シ議長副議長ハ其議員タルノ資格ト共ニ其職務ノ止ムモノトセハ後任者ノ勅選セラル、マテハ帝國議會ノ各議院ハ議長ナクシテ存在スルモノトナリ一朝事アルニ當リ忽チ不都合ヲ生スヘシ是其任期満限ニ達スルモ仍ホ其職務ヲ行ハシムル所以ナリ然レモ衆議院ノ解散ニシテシタルトキハ其間帝國議會ノ存在スルモノニアラス故ニ此場合ニ於テ其衆議院ノ議長副議長ハ其職務ヲ繼續スルモ

ノニアラザルナリ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

〔解釋〕本條ハ各議院ノ職員ヲ定メタルモノニシテ法律ニ定ムル所ノ職員ハ書記官長一人(勅任書記官數名(奏任)トス此書記官長及書記官ノ職務ハ次條ノ定ムル所ナリ

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ニ書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

〔解釋〕本條ハ書記官長ノ一般ノ職務ヲ規定シタルモノナリ第一項ハ書記官長ハ議長ニ從屬シ總テ議長ノ指揮ニ從ヒ書記官ノ事務

ヲ處理シ政府又ハ貴族院若クハ衆議院ニ廻送スヘキ公文ニ署名
スルナリ第二項書記官ハ議院ノ議事録及其他文書ノ案文ヲ作リ
且ツ院内ノ庶務ヲ管掌スヘキモノトス
第三項書記官ノ外他ノ必要ナル事務員ハ書記官長ノ任命ニ任ス
ル所ナリ

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

〔解釋〕 貴族院及衆議院ノ費額ハ國庫ノ負擔トス夫レ議會ハ國家ノ
政務ヲ論議スル所ナレハ其費用ハ全國一般ノ負擔トシ國庫ヨリ
之ヲ支辨シ地方稅ノ負擔ヲラシメサルナリ

第三章 議長副議長及議員歳費

〔解釋〕 本章ハ貴族院及衆議院ノ議長副議長議員ノ受クル歳費ノ事
ヲ規定シタルモノナリ○歳費トハ一ケ年間ニ要スル費用ヲ云フ
蓋シ歳費ハ年俸ト異名同質ノモノナランカ即チ名譽職ナル議員

ニ年俸ヲ給スト稱スルトキハ誠ニ穩カナラサルカ故ニ未タ人ノ
耳朶ニ慣レタル歳費ノ文字ヲ用ヰタルナランカ或ハ又其費額ノ
寡少ニシテ以テ年俸ト爲スニ足ラス若シ年俸ヲ給ストスルトキ
ハ更ニ幾倍ノ増額ヲ爲サレハカラス然レモ名譽職ナル議員ニ多
額ノ俸給ヲ與フルノ必要ナク又其開會モ或ル時間(通常ハ三ヶ月)ニ
シテ常開ノモノニアラサレハ多額ノ俸給ヲ與フルノ必要ナキヲ
以テ其實費ニ均シキ歳費ヲ給スルナラン但シ議長副議長ハ常任
ノモノナレハ稍々年俸ニ均シキ歳費ヲ給與スルナリ

〔餘論〕 議員ヲ名譽職ト爲スヘキヤ或ハ之ニ報酬ヲ與フヘキヤニ付
テハ夙ニ議論アル所ナリ

第一說ニ曰ク衆議院議員ハ固ト名譽ノ職ナリ故ニ之ニ俸給ヲ與
フルニ及ハス若シ之ヲ與フルトキハ第一議員ノ品格ヲ損シ第二
其俸給ヲ貪ホラント欲シ詐欺ノ手段ヲ以テ議員ニ選舉セラレシ

コトヲ企ツル者ナシトセス然ル下キハ國家ノ爲メニ力ヲ盡スノ
 意ナキ者マテモ其被選舉場裏ニ奔走スルニ至ルヘシ故ニ議員ハ
 名譽職ヲラサルヘカラスト
 第二說ニ曰ク議員ノ職務ハ國家ノ爲メニ盡力スルニ在リ故ニ一
 般ノ官吏ノ如ク國庫ヨリ其報酬ヲ與スヘキハ當然ナラ決シテ其
 品位ヲ汚ス等ノ恐レオシト
 然レモ右ノ兩說ハ各其一ニ偏シ間然スヘキモノト夫レ衆議院
 議員ハ素ヨリ名譽職ナリト雖モ毫モ之ヲ報酬ヲ與ヘサルトキハ
 偶々有爲ノ人士スリト雖モ其生計ノ裕カオヌカカ爲メニ候補
 者ト爲ルヲ得サル場合ナシトセス然レモ其多キニ過クルトキハ
 第一說ノ如ク其弊害ナシトセサルナリ故ニ余輩ハ我國ノ如キ生
 計ノ低度ナル邦國ニ於テハ旅費ノ外猶ホ旅費トテ其實際ニ均
 シキ若干ノ俸給ヲ與スルハ誠ニ至當ノ法制ナリト信スルナリ

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族
 院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル
 所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受ク
 ルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス
 官吏ニシ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依
 リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

〔解釋〕「貴族院ノ被選及勅任議員」ハ貴族院令第一條第三第四第五ニ
 規定セリ「旅費」ハ其行旅ノ里程ニ應シテ支給スル所ノ費額ヲ云
 フ故ニ手當金滞在費等ハ旅費中ニ包含セス

〔理由〕議長副議長及議員ハ固ト名譽職ナルヲ以テ其報酬ヲ受ケサ

ルチ原則トス然レモ議員ハ榮譽ノ職位ナルヲ以テ内外ノ交際其
 他ニ多額ノ費用ヲ要スヘシ若シ之ニ毫モ報酬ヲ與フルコトナシ
 トセシカ政治思想ニ富ミ且ツ經驗アル者モ其生計ノ裕カナラサ
 ルカ爲メ又ハ其費用ニ堪ヘスシテ已ムヲ得ス此ノ名譽職ニ就ク
 コト能ハサル者ナシトモ故ニ本條ハ其實費ニ均シキ歳費ヲ與
 ヘ以テ野ニ遺賢ナカラシメ并ニ其任務ヲ尽サシメシコトヲ希望
 シタルナリ而シテ議長副議長及議員ノ歳費ニ差等アルハ其任務
 ニ輕重アリ殊ニ議長副議長ハ特別ノ資格アルニ依リ從テ内外ノ
 交際上其他ノ費額ニ於テモ異同アルヘケレハナリ然レモ召集ニ
 應セサル者即チ議會ニ出頭セサル者ハ如何ナル費用ヲモ要ス可キ
 理由ナキヲ以テ旅費ハ勿論歳費ヲモ受クルヲ得サルナリ蓋シ歳
 費ハ議員議會ニ出頭スルニ依リ特ニ費用ヲ要スヘキヲ以テ之ヲ
 給スルナリ故ニ議會ニ出頭セサル者ハ旅費歳費ヲ給スルノ限リ

ニアラス

第二項議長副議長及議員ハ歳費ヲ辞スルコトヲ許サス即チ議長
 副議長及議員タルコトヲ承諾シタル以上ハ同時ニ必ス其歳費ヲ
 受シヘキモノト爲シタルハ何ソヤ抑モ議員ニ選舉セラルヘキ者
 ハ大約財産家ニシテ旅費歳費ノ如キハ必スシモ之チ心ニ介セス
 故ニ之チ辞スルコトモ亦敢テ意トセサルナリ況ンヤ議員ハ名譽
 職ナルニ於テオヤ若シ一人又ハ數人ノ議員カ獨リ其國家ヲ念フ
 ノ切情ナルヨリシテ其歳費ヲ辞スルコトアルトキハ他ノ議員モ
 亦勢イ已ムヲ得ス同シク之チ辞セサルヲ得サルニ至リ遂ニ法律
 カ歳費ヲ設ケタル精神ヲ貫徹スルヲ得スシテ前項ニ説述シタル
 カ如キ弊害ヲ醸生スルニ至ラン是レ議長以下ニ歳費ヲ辞スルコ
 トヲ許サル所以ナリトス

第三項官吏ニシテ議員タル者ニ歳費ヲ給セサルハ官吏ハ既ニ政

府ヨリ俸給ヲ受クルヲ以テ別ニ歳費ヲ給スルノ必要ナキニ依ルナリ

第四項ハ本法第二十五條ニ規定セル如ク議院ノ閉會中常任委員ヲシテ議案ノ審査ヲ爲サシメタル場合ハ第一項歳費ノ外別ニ其院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ一日五圓ヨリ多カラサル手當金ヲ受クルコトヲ得ヘシ是レ議院ノ閉會中ニ於テ特ニ事務ヲ取扱フモノナレハ其手當金ヲ受クルハ當然ノコトナリ○此ノ手當金ニ付テハ第二項ノ如ク明文ナキヲ以テ之ヲ辭スルヲ得ヘキカ

第四章 委員

〔解釋〕 委員トハ議會ヨリ事件取調ノ委任ヲ受ケタル者ヲ云フ凡ソ委員ヲ設クルノ理由ハ或ル事件ノ取調ヲ要スル場合ニ於テ多數ノ議員ヲシテ之カ取調ヲ爲サシムルヨリハ其取調事件ニ對シ特能ヲ有スル議員若クハ否ヲサレヒ特ニ少數ノ議員ヲ選擇シテ其

取調ニ從事セシムルハ却テ精密ノ結果ヲ得且ツ事務ノ迅速ニ舉ルノ利益アリ是レ委員ヲ設クル所以ナリ

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス
ス全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員トナスモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

〔解釋〕 本條ハ各委員ノ何タルコト并ニ其選任法ヲ定メタルモノナリ○全院委員トハ其議院ノ總議員ヲ以テ委員ト爲スヲ云フ議員ヲ以テ委員ト爲スハ稍々奇ナルカ如シト雖モ左ノ必要アルニ依

ル則チ全院委員ハ重大ナル事件ヲ審査討議スルニ方リ若シ正則會議ノ嚴格ナル手續ニ依ルトキハ却テ充分ノ結果ヲ見サルノ恐レアリ故ニ總議員ヲシテ委員ノ資格ヲ有セシメ以テ寛クニ熟談審議セシメシカ爲メナリ

〔常任委員〕トハ本條第二項ニ明示セル如ク事務ノ必要ニ依リ財務軍務敎務商務司法等ノ數部ニ分割シ各其擔任ノ事件ヲ審査セシメシカ爲メニ各部ニ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選任スルモノニシテ其任期ハ一開期ナリトス

〔特別委員〕トハ或ル一事件ヲ審査スル爲メニ或ル特定ノ人員ヲ總議員中ヨリ選任スルモノトス而シテ其任期ハ其事件取調ノ終結ヲ以テ期トス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

〔解釋〕 全院委員ハ其院ノ總議員ヲ以テ之ニ任スルモノナレハ議長ヲシテ委員長ニ充テ別ニ委員長ヲ選任スルニ及ハサルカ如シト雖モ元來其會ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ特ニ其長ヲ一開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉スルナリ

常任委員長及特別委員長ハ各其委員中ヨリ互選スヘキモノトス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

〔理由〕 全院委員會ハ多數ノ委員ヲ以テ組織スルモノナレハ議院即チ全委員ノ三分ノ一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レモ常任委員會及特別委員ハ少數ノ委員ヲ以テ組織スルモノナレハ半數即チ二分ノ一以上出席スルコトヲ得

ハ議事ヲ開クコトヲ得サルナリ斯ノ如ク議事開會ニ對シ出席委員ノ數ニ制限ヲ加ヘタルハ其議事ノ或ハ一二委員ノ私談若クハ喧嘩ニ流ルハノ恐レアレハナリ

第二十三條

常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ依リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

〔解釋〕

常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外公衆ノ傍聽ヲ禁ス凡ソ委員會ハ恰モ夫ノ豫審ノ如クコシテ決シテ公開ノ性質ヲ有スルモノニアラザルナリ故ニ其内部ナル議員ノ外ハ傍聽ヲ禁セリ但シ事件ニ依リテハ委員會ノ決議ニ依リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得ヘシ是レ其事件タル議員ノ身上ニ屬スルカ又ハ秘密ノモノナルトキハ多數ノ議員ヲシテ縱マコ傍聽セシムルトキハ漏泄ノ恐レアレハナリ

第二十四條

各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

〔解釋〕

各委員長ハ其委員會開設中ノ事歴及其取調議決ノ結果ヲ議院ニ報告スヘキモノトス是レ事件ノ委任ヲ受ケタル者ハ其成果ヲ委任者即チ議院ニ報告スヘキハ委任者ノ義務アレハナリ

第二十五條

各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

〔解釋〕

貴族院及衆議院ハ政府ノ要求アリタル場合及各議院ノ要求ニ依リ政府ノ同意ヲ得タルトキハ議會閉鎖ノ間ニ於テモ委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得ヘシ是レ全ク實際ノ便宜ニ出テタルモノナリ凡テ議會ノ事業ハ其閉會ト共ニ終結セシメ次回ニ繼續セシムヘキモノニアラス何トナレハ其事件ノ次回開會ニ際シテハ最早不必要タルカ或ハ發案者タル議員ノ辭職其他ノ事故ニヨリ議會ニ列セサルヤ知ルヘカラサルヲ以テナリ然レモ事件ノ審査ノ如キハ敢テ規則正シク其終結如何ニ拘ハラス

議會ノ閉會ト共ニ終滅セシムルニ及ハサルノ事情ナキニアラズ
 況ンヤ事件ノ重大ニシテ審査ノ容易ナラサルモノニ付テハ議會
 ノ閉會ト共ニ其審査ヲ中止シ既ニ審査ヲ終リタルモノマテモ之
 ナ拋棄シ更ニ取調ヲ爲スヘキモノトスルトキハ再三再四同一ノ
 審査ヲ爲シ徒ニ時日ノ遷延スルノミニテ寸毫ノ利益ナキニ於テ
 ナヤ併シ議會ノ開會中議案ノ審査ヲ爲サシムルカ如キハ例外ナ
 ルヲ以テ本條ノ制限ヲ付シタル所以ナルコトヲ記憶セサルヘカ
 ラス

第五章 會議

〔解釋〕 本章ハ帝國議會ノ活動スル會議ノ事ヲ規定セリ

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス
 議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事
 緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔解釋〕 貴族院及衆議院ノ議長ハ議事日程即チ議ス可キ事件ノ日課
 ナ豫定シテ議院ニ報告スヘキモノトス是レ議員ニ於テ其取調ノ
 前後緩急ヲ爲スヘキ必要アルヲ以テナリ

第二項議長議事日課ヲ豫定スルニ當リ政府ヨリ提出シタル議案
 ナ先キニスヘキコトヲ命シタルハ若シ議院ヨリ提出シタル議案
 ノ爲メニ日時ヲ費ヤシ其開會中ニ於テ政府ノ議案ヲ議定シ終ラ
 サルカ如キコトアルトキハ政府ノ施政上ニ障礙ヲ與フルコト少
 ナカヲサレハナリ但シ議院ヨリ提出シタル議案ナルモ若シ其議
 案ニシテ緊急必要ノモノナルトキハ政府ノ同意ヲ得テ之ヲ先キ
 ニスルコトヲ得ヘシ

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府
 ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ依リ議院ニ於テ出席議員三分
 ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略ス

ルコトヲ得

〔解釋〕 三讀會ノ順序トハ第一讀會ニ於テ議案ノ説明ヲ爲シ第二讀會ニ於テハ其理否利害ノ点ヲ討究シ第三讀會ニ於テハ其可否ヲ表決スルナリ

法律ノ議案ハ其議決ノ上ハ永遠ニ施行セラル可キモノナレハ鄭重ノ上ニモ鄭重ヲ尽シ之ヲ議決ス可キモノナルヲ以テ必ス三讀會ヲ經テ之ヲ確定スヘキモノトス然レハ其議案ニシテ至急ヲ要スルカ或ハ前會期ニ於テ第一讀會若クハ第二讀會ヲ經タルモノニシテ本會期ニ於テ更ニ之ヲ議スヘキモノナルトキハ政府ノ要求ニ依リ又ハ議員十人以上ノ要求アル場合ニ於テハ出席議員三分ノ二以上ノ多數決ヲ得タルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略シ或ハ第二讀會ニ於テ直ニ確定議ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之

ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

〔解釋〕 政府ヨリ提出シタル議案ハ各議院ノ委員會ヲシテ先ツ其審査ヲ爲サシメタル上ニアラサレハ直ニ之ヲ議事ニ付スルコトヲ許サ、ルナリ若シ委員會ノ審査ヲ經スシテ直ニ議事ニ付スルトキハ或ハ充分ノ審査ヲ遂ケスシテ廢案若クハ修正ノ動議ヲ爲スノ恐レナシトセサレハナリ然レハ若シ其議案ニシテ緊急ヲ要スルモノナルトキハ政府ノ要求ニ依リ直ニ議事ニ付スヘキモノトス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

〔解釋〕 議案ノ發議ヲ爲ス者及現ニ議事ニ付シタル議案ニ對シ修正

ノ動議ヲ爲ス者ハ二十人以上ノ同意賛成アルニテハ一
 ノ議案若クハ一個ノ修正説ト爲シ議會ノ議事ニ付シ若クハ一個
 ノ修正説トシテ可否ヲ多數ニ決スルヲ許サ、ルナリ故ニ二十人
 以下ノ賛成アルモ其議案ノ發議又ハ修正ノ動議ハ消滅ニ歸シ曾
 テ議案ノ發議及修正ノ動議ハ之レナキモノト看做スナリ

〔理由〕發案及修正ノ動議ニ對シ二十人以上ノ同意賛成アルニテ
 サレハ一ノ議案トシテ議會ノ討議ニ付シ又ハ一ノ修正説トシテ
 其可否ヲ議會ニ決スルヲ許サ、ル所以ノモノハ何ソヤ曰ク若シ
 少數者ノ意見ニ從ヒ猥リニ議案ヲ議會ニ提出スルヲ許ストキハ
 徒ニ議會ノ紛擾ヲ醸スノ弊害アリ又少數者ノ修正説ヲ以テ一個
 獨立ノ説ト爲シ其可否ヲ議會ニ問フトキハ議會ハ數十ノ小異説
 ニ分裂シ遂ニ成規ノ決議數ヲ得ル能ハスシテ廢案ニ歸セシメサ
 ルヘカヲサルカ如キ弊害ヲ生スル等ノ理由アルヲ以テナリ

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ
 撤回スルコトヲ得

〔解釋〕政府ハ議會ニ提出シタル議案ノ最早不必要ニ歸シタリ認め
 タル場合及既ニ提出シタル議案ニ對シ修正ノ必要ヲ認めタル場
 合ニ於テハ議會ノ同意賛成アルニ拘ハラズ又其議事ノ第一讀會
 タルト第二讀會タルヲ論セス其議案ヲ取戻シ又ハ修正ヲ爲スコ
 トヲ得ヘシ

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大
 臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ
 但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否
 決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

〔解釋〕凡テ議案ハ最後ニ議決シタル貴族院若クハ衆議院ノ議長ヨ

リ國務大臣ヲ經テ上奏シ 天皇ノ御裁可ヲ俟ツヘキモノトス若シ貴族院若クハ衆議院ヨリ提出シタル議案ニシテ衆議院若クハ貴族院ニ於テ否決シタルトキハ其旨ヲ發案者タル議院ニ通知スヘキモノトス第五十四條第二項ノ規定則チ是ナリ

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラ

ル、モノハ次ノ會期マテニ公布セララルヘシ

〔解釋〕 貴族院及衆議院ニ於テ共ニ可決若シクハ修正シタル議案ヲ奏上シタル後 天皇ノ御裁可アラセラル可キモノハ次回ノ會期マテニハ公布セララル、ナリ故ニ次ノ會期マテニ公布ナキ議案ハ天皇ノ御裁可ナク全ク廢棄ニ屬シタルモノト看做サ、ルヘカラス

第六章 停會閉會

〔解釋〕 〔停會〕トハ開會中一時其議事ヲ休止スルヲ云ヒ〔閉會〕トハ議事

ノ終結ヲ告ケ議會ヲ閉ツルヲ云フ此ノ停會及閉會ニ付テハ憲法ニ於テ詳述シタルハ茲ニ贅セス

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

〔解釋〕 政府ハ議案ノ都合ニ依リ或ハ議會ノ議事ニシテ不穩ノ景況アリテ今之ヲ議了セシムルモ到底其結果ヲ得ル能ハサルヘシト認メタルトキハ何時ニテモ直ニ議會ニ十五日ヨリ長カラサル時間其停會ヲ命スルコトヲ得ヘシ

〔理由〕 停會ノ時間ニ制限ナキトキハ政府ハ現ニ議院ニ於テ討議ニ付セル議案ノ議定ヲ欲セサルトキハ猥リニ議會ニ停會ヲ命シテ其發布ヲ遲延セシメノコトヲ企ツルコトナキニアラス故ニ此ノ制限ヲ設ケテ其擅横ヲ豫防スルナリ

議院ノ停會ハ閉會ニアラス一時ノ休止ニシテ其命脈ノ連絡シ居ルモノナレハ再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘキモノトス

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

〔解釋〕 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタルトキハ帝國議會ノ成立ナキヲ以テ貴族院ハ衆議院ノ成立ト同時ニ議事ヲ始ムルモ前會ノ議事ヲ繼續スルヲ得サルナリ

〔理由〕 衆議院ニ解散ヲ命スルモ貴族院ハ共ニ解散セシム可キ理由ナキヲ以テ唯單ニ衆議院ノ成立ニ至ルマテ之ニ停會ヲ命スルナリ然レモ此ノ停會ハ第三十三條ニ規定セル停會トハ其性質ヲ異ニシ全ク帝國議會ノ成立ナキモノナレハ貴族院モ亦前會ノ議事ヲ繼續スルヲ得サルナリ若シ衆議院ノ解散中ニ於テ貴族院獨リ

議事ヲ爲スモ衆議院ノ議員ハ其議事ヲ知り得ヘキ筈ナク從テ其議決ノ精神等ヲ知ル能ハサルナリ況ンヤ帝國議會ノ成立ナキニ於テチヤ

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

〔理由〕 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續スルヲ得サルナリ蓋シ其理由タルヤ屢々述フル如ク次回ノ開會ニ際シテハ時勢一變シテ該議案建議請願事件ノ不必要タルニ至リシカ或ハ其發案者タル議員ノ其議場ニ列セサル爲メ其發案ノ精神理由ヲ知ルニ由ナキ等ノ理由アルヲ以テ凡テ議會ノ事業ハ其閉會ト共ニ終結シ後會ニハ其議事ヲ繼續スルヲ得スト規定シタルナリ然レモ第二十五條ノ例外ノ場合ハ此

ノ限リニアラズルナリ

第三十六條

閉會ハ勅命ニ依リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

〔解釋〕

本條ハ帝國議會ノ開院式ヲ規定シタルモノナリ則チ閉會ハ勅命ニ依リ兩議院合會ノ上ニテ舉行セラル、ナリ其式ヲノ如キハ本條ニ明定ナシト雖モ開院式ノ場合ト同シク貴族院ノ開院式ニ充ツルナラン又此ノ場合ニ於テ議長ヲ要スルトキハ是亦開院式ノ場合ト同シク貴族院ノ議長ヲシテ其席ニ就カシメ其職務ヲ尽サシムルナラント信スルナリ

第七章

秘密會議

〔解釋〕

「秘密會議」トハ公衆ノ傍聴ヲ許サズ内密ニ議事ヲ開クヲ云フ故ニ委員會ノ如キハ元來密行ノモノナレハ本條ノ規定外ト知ルヘシ

〔理由〕余輩ノ屢々述フル所ク議會ハ公開即チ公然傍聴ヲ許スチ以

テ原則トス然レモ外交上ノ機密ニ係ル議案ノ如キハ若シ其議事ノ世上ニ發露スルトキハ容易ナラサル國害ヲ爲スチ以テ其傍聴ヲ禁ゼサルヘカラス或ハ時勢ニ依リ公衆ノ傍聴ヲ許ストキハ不穩ノ恐レアルトキハ何レモ公衆ノ傍聴ヲ禁シ秘密ニ之ヲ議セサルヘカラス

第三十七條

各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ

得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルト

キ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

〔解釋〕秘密會議ハ議會ノ變則ナレハ猥リニ之ヲ許スヘキモノニア

ラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ(一)議長又ハ議員十人以上ノ發

議ニ從ヒ議院之ヲ可決シタルトキ(二)政府ヨリ秘密會議ト爲スヘキ要求ヲ受ケタルトキノ外ハ縱マニ公開ノ議會ヲ變シテ秘密會ト爲スコトヲ得サルナリ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

〔解釋〕 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ爲サントキハ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ其秘密會議ト爲スヘキヤ否ヤニ付キ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルヘキモノトス若シ其秘密會議ト爲スヘキ理由ヲ討議スルトキハ却テ其事ヲ暴露セシムルノ恐レアレハナリ又傍聽人ヲシテ直ニ退去セシムルハ傍聽人ハ其傍聽ヲ禁セラル、ヲ拒マンカ爲メ議場ノ亂雜ヲ爲サントキヲ恐ルレハナリ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

〔解釋〕 秘密會議ノ議事録ハ之ヲ刊行スルコトヲ許サ、ルナリ若シ其刊行ヲ許ストキハ先キコ傍聽ヲ禁シタル理由ト相撞着スルニ至レハナリ

第八章 豫算案ノ議定

〔解釋〕 本章ハ國家ノ歳入歳出ニ關ル豫算議案ヲ議定スルコトヲ定メタリ夫レ歳計豫算案ハ國家ノ命脈ヲ保維ス可キ最モ緊要ノ議案ニシテ則チ政府ノ運動モ之ニヨリ政務ノ施行モ之ニヨルヘク又兵備ノ擴張モ之ニヨルヘシ實ニ本案ノ如何ニヨリテ其國家ニ影響ヲ及ホスコト莫大ナリトス猶ホ詳細ハ會計法ニ於テ説述スヘシ

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院

ニ報告スヘシ

〔解釋〕 歲計豫算案ハ頗ル入り込ミタルモノナレハ之ヲ取調フルコト容易ナラス故ニ特ニ委員ヲ設ケシメ以テ其議案ノ詳細ヲ檢案セシムルナリ然ラサレハ或ハ其豫算ノ理由ヲ究メスシテ猥リニ廢棄シ又ハ減却スルコトアレハナリ然リ而シテ審査ノ日時ヲ十五日間ニ限定シタル所以ノモノハ此ノ議案ハ國家ノ命脈ヲ維持スヘキ緊要ノモノナレハ若シ之ヲ等閑ニ付シ其開會中ニ議了スルヲ得サルコトアルトキハ政務ノ施行上ニ於テ最大ナル妨害ヲ爲スヲ以テ歲計豫算案ハ其開會中ニ於テ必ス之ヲ議了セシメサルヘカヲサルナリ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スル

モノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス
〔解釋〕 歲計豫算案ハ政府其施政ノ方針ニ從ヒ編制シタルモノナレ

ハ其原案ノ通過センコトヲ欲スルハ當然ノ事ナリト雖モ議會モ亦本案ノ如何ニヨリテハ國民ニ重大ナル利害ノ關係ヲ有スルヲ以テ詳密ニ之ヲ審査シ之ヲ議定セサルヘカラス特ニ議會ハ國民ノ代表者ニシテ又一方ニハ國家ノ政務ヲ議定スル者ナレハ國民ノ私益ト國家ノ公益トヲ比較計量シ其中庸ヲ得テ以テ議決ヲ爲スヘキナレトモ或ハ國民ヲ念フノ切情若クハ國民ノ興望ヲ得ント欲シ徒ニ議案ノ減額ヲ主張シ修正動議ヲ爲ス者ナキヲ保セス是ヲ以テ法律ハ其輕躁ノ修正ヲ虞リ三十人以上ノ賛成アルニアラサレハ議題ト爲スヲ得ストノ制限ヲ付シタル所以ナリ

第九章 國務大臣及政府委員

〔解釋〕 國務大臣ノ事ハ余輩既ニ之ヲ解説シタリ又政府委員トハ政府ノ委任ヲ受ケ政府ヨリ提出シタル議案ノ説明ヲ爲スモノナリ本章ハ國務大臣及政府委員ノ議會ニ對シテ有スル權利ヲ規定シ

タルモノナリ

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

〔解釋〕 國務大臣及政府委員ハ政府ヨリ提出シタル議案ノ説明ヲ爲シ或ハ施政上ニ付キ其意見ヲ吐露スヘキ必要アルヲ以テ其議會ノ公開タルト秘密タルトヲ論セス何時ニテモ發言ノ權利ヲ有スルナリ然レモ現ニ演說シツ、アル所ノ議員ノ言論ヲ半途ニシテ中止セシムルコトヲ許サス若シ議員ノ演說ヲモ中止セシメ國務大臣及政府委員ノ發言ヲ許ストキハ國務大臣及政府委員ハ議會ヲ蔑如シ其權威ヲ逞フスルニ至ルヘキニシテ此ノ制限ヲ付シタル所以ナリ

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

〔解釋〕 貴族院若クハ衆議院ニ於テ政府ヨリ提出シタル議案ヲ調査シ委員ニ付シタルトキハ國務ノ各大臣及政府委員ハ其會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得ヘシ是レ國務ノ各大臣及政府委員ハ議案ノ原案者タルヲ以テ其議案ノ趣旨ヲ説明シ原案ヲ辯護スルノ必要アレハナリ然レモ國務大臣及政府委員ハ調査委員ニアラサルヲ以テ其表決ノ數ニ與カルコトヲ得サルナリ

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

〔解釋〕 委員會ニ於テ政府ヨリ提出シタル議案ノ説明ヲ必要トスルトキハ貴族院若クハ衆議院ノ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得ヘシ委員ハ其委員會ニ出席シテ之ヲ説明スルカ或ハ文書ヲ以テ説明セサルヘカラス然リ而シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルニ議長ノ手ヲ經由セシムルハ其事タル院外ニ對スル間

係ナレハ其議會ノ代表者タル議長ヲシテ之ヲ爲サシムルナリ
第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會

議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

〔解釋〕 國務大臣及政府委員ハ議會ニ出席シ其資格ヲ以テ發言スルノ權利ヲ有ス然レモ更ニ議員タルノ資格ヲ有セサル者ニアルナレハ其表決ノ數ニ預カルコトヲ得サルナリ何トナレハ國務大臣及政府委員ハ議會ノ分子ニアラサレハナリ然レモ國務大臣及政府委員タルノ資格ヲ有スルトテ其議員タルノ資格及權利ヲ剝奪シ若クハ減殺スヘキ理由ナキヲ以テ國務大臣及政府委員ニシテ議員タルノ資格ヲ有スルトキハ其表決ノ數ニ預カルコトヲ得ルナリ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

〔解釋〕 常任委員會及特別委員會ヲ開クトキハ其議案ニヨリ例ヘハ財務ノ議案ナレハ之ヲ大藏大臣ニ或ハ軍務ノ議案ナレハ之ヲ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ并ニ其議案ノ説明委員タル政府委員ニ其開會ノ旨ヲ報知スヘキモノトス是レ國務大臣及政府委員ハ委員會ニ出席シテ其意見ヲ陳述スヘキ必要アルヲ以テナリ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

〔解釋〕 議事ノ日課表并ニ議事ニ關ル報告ヲ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニモ送付スヘキコトヲ命シタルハ是レ國務大臣及政府委員ノ議會ニ出席シテ其意見ヲ陳述スヘキ都合アレハナリ

第十章 質問

〔解釋〕 本章ノ質問トハ單ニ議案ノ説明等ヲ意味スルモノニアラス

シテ政府ノ憲政上若クハ其他ノ事件ニ對シ政府ノ辨解説明ヲ得
ン爲メニ議院ヨリ爲ス所ノ尋問ヲ云フ故ニ其手續タルヤ簡易ナ
ラサルナリ

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ
三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス

質問ハ同明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ
提出スヘシ

〔解釋〕 貴族院及衆議院ノ議員政府ニ對シ施政上若クハ或ル事件ニ
關シ政府ノ方針并ニ事件ノ處置ニ付キ尋問ヲ爲サントスルトキ
ハ三十人以上ノ賛成ヲ要スルナリ是レ政府ニ向テ輕忽ニ質問ヲ
爲シ徒ニ政府ヲ攻撃スルノ弊風ヲ生ゼンコトヲ豫防シ且テ充分
ノ熟慮ヲ爲シ以テ質問セシコトヲ欲スレハナリ質問ハ簡單明瞭

ナル主意書ヲ作り賛成者ト連署ノ上議長ノ手ヲ經テ政府ニ進達
スヘキモノトス○質問ノ事件ハ議會ノ討議ヲ經ス其主意ヲ文書
ニ認メシムルハ若シ其事件ノ討議ヲ爲ストキハ却テ議會ノ乱擾
ヲ生スヘキ恐レアレハナリ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ
答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サルトキハ
其ノ理由ヲ示明スヘシ

〔解釋〕 質問主意書ニ對シ國務大臣ハ直ニ文書ヲ以テ之ニ答フルカ
或ハ議會ニ出頭シテ之カ辨明ヲ爲スカ又ハ其答辯ヲ爲スヘキ期
日ヲ定メテ之カ答辯ヲ爲ス可キコトヲ通知セサルヘカラス然レ
モ若シ外交上機密ノ事件ニ係リ之ヲ公然辨明スルヲ得サルカ如
キ事情アルトキハ其理由ヲ明示スヘキモノトス然リ而シテ政府
ハ質問ニ對シ一言ノ答解ヲモ爲ス能ハサルトキハ則チ其事件タ

ル政府ノ曲事ニシテ國務大臣ハ法律ノ制裁アラサルモ德義上其位ヲ去ルヘキモノトス

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

〔解釋〕 議員ハ國務大臣ノ答辯ヲ得ルモ之ニ満足セサルカ又ハ答辯ヲ得サルトキハ其質問ノ事件ニ對シ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得ヘシ此ノ建議ノ動議ハ既ニ内閣ニ信用ヲ置カサル爲メ信用投票ヲ爲スカ或ハ政府ヲ彈劾スルト同一ニシテ頗ル重大ナルコトナリトス故ニ若シ政黨内閣ナルトキハ内閣諸大臣ハ此ノ建議ノ如何ニ依リテ德義上其職ヲ辭セサルヘカラス

第十一章 上奏及建議

〔解釋〕 上奏トハ 天皇陛下ニ封事ヲ上ツルヲ云ヒ建議トハ政府ニ對シ文書ヲ以テ意見ヲ述フルヲ云フ

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長

ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

〔解釋〕 貴族院及衆議院ヨリ上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代ト爲シ謁見ヲ請ヒ之ヲ直奏スルコトヲ得ヘシ是レ間ニ居テ上奏ヲ妨害スルモノアランコトヲ虞リタルナリ又貴族院及衆議院ヨリ政府ニ對スル建議ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛

成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

〔解釋〕 上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニアラサレハ一個ノ議題ト爲シ其可否ヲ議會ニ開クコトヲ許サ、ルハ上奏及建議ハ猥リコ之ヲ許スヘキモノニアラレハナリ

第十二章 兩議院關係

〔解釋〕 本章ハ貴族院ト衆議院トノ關係交渉ヲ規定シタルモノナリ
是レ兩議院ノ權限互ニ牴觸スルトキハ兩院軋轢ノ原因ト爲リ國
家ノ弊害ヲ醸生スヘキヲ以テ茲ニ豫メ其權限ヲ規定シタルモノ
ナリ

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レ
ヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

〔理由〕 衆議院ノ議員ハ人民ヨリ直接ニ選舉セラレ重モニ時勢ニ依
レル政治思想ヲ有スルモノナリ故ニ其民情及時勢ニ通曉スルコ
ト貴族院議員ノ上ニ位スルモノト認メサルヲ得サルナリ夫レ然
リ歳計豫算案ノ如キハ他ノ法律ノ議案ノ如ク永遠ニ施行セラル
ヘキモノニアラスシテ該年度限りノモノナリ而シテ豫算案ヲ議
決スルト同時ニ人民ニ納稅ノ義務ヲ負ハシメサルヘカラス故ニ

此ノ議案ハ人民ニ重大ナル利害ノ關係ヲ有スルヲ以テ其人民ニ
直接セル衆議院議員ヲシテ先ツ之ヲ議セシメ其民力ノ強弱ヲ計
リ果シテ其負擔ニ堪ユヘキヤ否ヤ充分ノ討議ヲ遂ケシメサルヘ
カラス是レ豫算案ノ特ニ先ツ衆議院ニ付スヘキコトヲ規定シタ
ル所以ナリトス然レモ其他ノ議案ハ何レヨリ先キニスルモ素ヨ
リ政府ノ便宜ニ係ルヘキモノトス

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決
シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決
ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ
通知スヘシ

甲議院ニ於テ乙議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ
乙議院ニ通知スヘシ

〔解釋〕 甲議院ニ於テ政府ノ提出ニ係ル議案ヲ可決又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ移送スヘキナレトモ若シ甲議院ニ於テ否決シタル議案ハ之ヲ乙議院ニ移スニ及ハサルナリ

乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ其修正案ニ對シ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ其議決ヲ甲議院ニ通知スヘキモノトス

乙議院ニ於テ甲議院ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スルマテニテ上奏スルニ及ハサルナリ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

〔解釋〕 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移付セシ議案ニ對シ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付シ更ニ其同意ヲ經ヘキモノトス是レ議案ハ兩院ノ協賛ヲ得カレハ廢棄ニ屬スヘキヲ以テナリ若シ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ其修正ニ同意シタル旨ヲ乙議院ニ通知スヘキモノトス然レモ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意スルヲ得サルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ乙議院ニ求ムヘキモノトス是レ兩院共ニ此ノ議案ニ賛成ナレトモ唯其些少ノ異同アルカ爲メ遂ニ廢棄ニ屬セシメサルカ如キ不都合ヲ生スヲ以テ更ニ兩院協議會ヲ開キ各相讓リテ之ヲ議決セシメコトヲ希望シタルナリ

右ノ場合ニ於テ乙議院ハ甲議院ノ要求ヲ拒ムコトヲ許サ、ルナ

リ是レ些少ノ異同ヲ固執スルトキハ國家ノ爲メ害アリテ益ナカ
ルヘキヲ以テナリ

第五十六條 兩院協議ハ兩議員ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選
舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受
取り又ハ提出シタル議甲院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移
スヘシ協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議
ヲ爲スコトヲ許サス

〔解釋〕 此條ハ兩院協議會ノ組織ヲ定タルモノナリ則チ兩院協議會
ハ各議院ヨリ十人以下各同數ノ委員ヲ選出シ協議ヲ逐ケシムル
ナリ而シテ委員ノ協議案成立スルトキハ既ニ上奏シタル議案ヲ
政府ヨリ請取り置キ先ツ協議ヲ要求シタル甲議院ニ於テ之ヲ議
シ次ニ乙議院ニ移スヘキモノトス此ノ協議案ニ對シテハ可否ノ
議決ヲ爲スノミニシテ修正ノ動議ヲ爲スヲ許サ、ルナリ若シ其

修正ノ動議ヲ許ストキハ其際限ナク議事ノ終結スヘキ時期ヲキ
チ以テナリ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩
院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

〔解釋〕 兩院協議會ハ特別ノ委員會ナルヲ以テ本條ハ特ニ國務大臣
政府委員及各議院ノ議長ハ何時ニテモ其會ニ出席シテ意見ヲ陳
述スルヲ得ヘキコトヲ規定シタルナリ

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

〔解釋〕 兩院協議會ハ所謂折合ノ相談ニシテ特ニ内密ヲ要スヘキヲ
以テ公衆ハ勿論議員タリトモ傍聽ヲ許サ、ルナリ若シ委員ノ他
ニ議員等ノ傍聽アルトキハ各委員ハ傍聽ノ議員等ニ對シ其議院
ノ主張說ヲ變スルコトヲ耻辱トシ猶ホ前議ヲ固執シ遂ニ協議ノ
調ハサル恐レアレハナリ

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

〔理由〕 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルニ投票者ノ氏名ヲ記入セ
サル無名投票ヲ用サルハ何ソヤ若シ明カニ其同意ノ如何ヲ顯ハ
ストキ前條ニ述ヘタル如ク各委員ハ其院ノ主説ヲ變スルコトヲ
耻辱トシ強テ前説ヲ固執スルノ恐レアリ故ニ何人ノ同意賛成ヲ
ルヤ知ルチ得サル無名投票ヲ用非テ暗々裏ニ其信認スル所ニ同
意賛成セシメゾコトヲ欲シタルナリ若シ其可否同數ナルトキハ
議長ノ決スル所ニ依ルナリ此ノ場合ニ於テ議長ハ無名投票ヲ用
サルノ必要ナシ何トナレハ議長ハ何レノ説ニ左祖シタルヤ否ヤ
ハ明カニ之ヲ知ルチ得ヘキヲ以テナリ

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ
互選シ每會交代シテ席ニ常ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ

抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

〔解釋〕 兩院協議會ノ議長ハ各議院ヨリ選出シタル協議委員中ニ於
テ各々一人ヲ互選シ每會交代シテ議長ノ席ニ就カシム而シテ其
初會ノ議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ムルナリ
〔理由〕 每會交代又ハ抽籤法ヲ用サルハ圓滑公平ヲ主トシ或ハ一議
院ノ其勢力ヲ逞フスルニ至ルヘキ弊害ヲ生センコトヲ豫防シタ
ルナリ

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協
議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

〔解釋〕 本章ニ規定シタル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ各議院ノ
協議ニ任シ本章ニハ其細則ヲ定メスシテ之ヲ各議院ニ委任セリ
之ヲ法律ノ委任ト云フ

第十三章 請願

〔解釋〕「請願」トハ行政上若クハ自然ノ結果タルトテ論セス人民困厄ニ陷キリ又ハ損害ヲ被ムリタルトキハ之ヲ訟求スヘキ權利ナリ即チ政府ニ過失ノ責ムヘキナキ場合ニ於テ其救濟ヲ哀願スルヲ云フ

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

〔解釋〕人民ヨリ各議院ニ呈出スル請願書ハ議員ノ紹介ヲ得テ之ヲ議院ニ差出スヘキモノトス故ニ人民ハ直ニ請願書ヲ議院ニ呈スルコトヲ得ス議院モ亦議員ノ手ヲ經サル人民ノ請願書ハ之ヲ受取ルヲ得ス是レ人民ヨリ直接ニ請願書ヲ受取ルトキハ乱雜ニ涉ルノ恐レアレハナリ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹

介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

〔解釋〕請願書ハ先ツ之ヲ特ニ設ケタル請願委員ニ付シ其請願書ノ法式ニ合フヤ或ハ敬禮ヲ失シタルモノニアラサルカノ諸点ヲ取調ヘ然ル後ニ第六十四條ノ手續ヲ爲スヘキモノトス若シ其請願書ニシテ規定ノ法式ニ合ハスト認メタルトキハ議長ハ其紹介ヲ爲シタル議員ノ手ヲ經テ却下スヘキモノトス

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

〔解釋〕請願委員ハ請願文書表ナルモノヲ作り其受理スヘキ請願書ノ要領ヲ記録シ每週一回之ヲ議院ニ報告スヘキモノトス請願委員特別ノ報告ニ依レル要求トハ請願委員ニ於テ請願事件

ニテ議會ノ會議ニ附スヘキ必要アリト認メタル場合ニ於テ議會ノ會議ヲ經ンコトヲ要求シタルヲ云フ其特別ノ報告トハ前項ノ報告ニ對シテ稱スルナラン

委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アリトアラサレハ各議院ハ其受理シタル請願事件ヲ會議ニ付スルコトヲ得サルナリ是レ些細ノ請願ニ應シテ一々之ヲ會議ニ付スルトキハ議院ハ其煩雜ニ堪ヘサルノミナラス到底其開會中ニ於テ之ヲ議了スルコト能ハサルヲ以テナリ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

〔解釋〕 各議院ニ於テ其請願事件ノ取ルヘキモノト議決シタルトキハ意見書ヲ附シテ其ノ請願書ト共ニ之ヲ政府ニ送付ス政府ハ請

願事件ノ採否ヲ決スルハ其自由ナリト雖モ若シ議院ニ於テ其採否ヲ知ルノ必要アルトキハ政府ニ對シ其報告ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

〔解釋〕 「法人」トハ所謂ル無形人ニシテ法律上假想ニ係ル人ヲ云フ則チ官公立諸學校病院其他ノ公舍市町村及商業上ノ諸會社等ヲ云フ
是等ノ法人ハ人ノ集合ナルヲ以テ其請願ヲ爲スニ當リテハ必スヤ其總代ナル學校長病院長又ハ市町村長及會社長ノ名義ヲ以テ之ヲ爲サ、ルヘカラス然レモ一般ノ人民ハ相團結シ總代ノ名義ヲ以テ請願ヲ爲スコトヲ許サス必ス請願者一同ノ連署ヲ要スルモノトス是レ請願者ノ何人ナルヤヲ詳カニスヘキ必要アルニ依

ルナリ本條法人ヲ例外ニ置キタルハ法人ハ多數人ノ集合ナレトモ法律上ニ於テハ之ヲ一個ノ人ト見做スヲ以テナリ

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

〔解釋〕 各議院ハ憲法ヲ變更スル請願ヲ受クルコトヲ得サルナリ抑モ憲法ノ改正ハ頗ル重大ナレハ其發案權ハ 天皇ノ特有シ給フ所ナリ故ニ縱令請願タリトモ憲法ヲ變更スヘキモノハ之ヲ受理スルヲ得ス

又憲法ニ違背セントスル請願モ亦之ヲ受理スルヲ得サルナリ則チ兵役又ハ納稅ノ義務ヲ免除セラレノコトヲ請願スルカ如キハ何レモ不法ノモノナレハ之ヲ受理スヘカラサルナリ

第六十八條 請願書ハ總テ哀訴ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ

依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス〔解釋〕 總テ請願書ハ哀訴歎願ノ文禮ヲ用ユヘキモノトス是レ其訟

求ノ權利ナクシテ其救濟ヲ請フモノナレハナリ故ニ若シ請願書ナルモ請願ノ名義ニ依ラサルモノ若クハ哀訴歎願ノ文禮ヲ用フスシテ徒ニ當時施政ノ得失ヲ論シ或ハ法律規則ノ制定若クハ改廢ヲ要求スルカ如キモノハ各議院ニ於テ之ヲ受理スルヲ得サルナリ

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用フ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用フルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

〔解釋〕 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用フ或ハ政府又ハ議院對シ侮辱ノ語ヲ用フタルモノハ哀訴歎願ノ體式ニ違背セルヲ以テ各議院ハ之ヲ受理スルコトヲ得サルナリ

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

〔解釋〕 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スヘキ請願ハ之ヲ受クルコ

トヲ得サルナリ是レ裁判ハ獨立ニシテ他ヨリ之ヲ非議スヘキモノニアラサルヲ以テナリ

〔理由〕 民刑事及商事ノ司法裁判又ハ行政裁判ニ關スル事件ニ付テハ如何ナル請願ト雖モ各議院ニ於テ之ヲ受理スルヲ許サ、ル所以ノモノハ何ソヤ抑モ裁判ハ不羈獨立ニシテ他ヨリ之ニ非議ヲ許スヘキモノニアラス若シ議院ニシテ是等ノ裁判事件ニ關スル請願ヲ受理シ或ハ之ヲ議セシムルヲ許ストキハ立法部ヲシテ司法權ニ干涉セシメ其獨立ヲ害スルノ弊害ヲ生スルニ至ルヲ以テナリ加之ナラス常ニ勝敗ノ何レカニ存スル裁判ニ對シ請願ヲ許ストキハ敗訴者ハ必ス更ニ請願ヲ爲シ裁判ノ變改ヲ求ムルニ至リ遂ニ裁判ハ其確定ノ期ナキニ至リ公益ヲ害スルヲ以テナリ

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

〔解釋〕 總テ請願書ハ各議院各別ニ之ヲ受ケ互ニ相干預シ或ハ其受

理若シハ採否ニ關シ協議等ヲ爲スコトヲ許サ、ルナリ若シ互ニ相干預スルトキハ甲議院ニ於テ却下スヘキモノト認メタルモ議院ノ受理ニ依リ已ムヲ得ス採理セサルヘカラサルカ如キ不都合ヲ生スルヲ以テナリ

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

〔解釋〕 本章ハ議院ト人民トノ關係并ニ議院ト各省道廳府縣廳及府縣會郡會市町村會トノ關係ヲ規定セリ

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

〔解釋〕 本條ハ議院ト人民トノ關係ヲ規定シタルナリ則チ各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得サルナリ是レ各議院ハ直接ニ人民ニ對シ政務ヲ執行スヘキモノニアラス是等ノ事ハ宜シク政府ヲシテ之ヲ爲サシムヘキモノニシテ議院ハ唯々法律及歲計豫算案ヲ議定スルヲ以テ其職務ト爲スヘキナリ

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スル
ユトヲ得ス

〔解釋〕 本條モ前條ト同シク議院ト人民トノ關係ヲ規定シタルモノ
ナリ則チ各議院ハ其議案ヲ審査スル爲メニ人民ヲ召喚シテ之ヲ
尋問シ或ハ特ニ議員ヲ派出セシメテ其狀況ヲ取調ヘシムヘキ必
要アリト認ムルモ之ヲ爲スヲ許サ、ルナリ若シ猥リニ議員ヲ派
出セシムルトキハ人民ハ議員ニ馴レ遂ニ議院ハ人民ノ情實ニ糾
サレ姑息ノ處置又ハ偏頗ノ處分ヲ爲スヘキ弊害ヲ生スルニ至ル
ヘキヲ以テナリ又其人民ヲ召喚スルモ右ト同一ノ弊害ヲ生スル
ヲ以テ之ヲ許サ、ルナリ

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ
文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應
スヘシ

〔解釋〕 各議院ニ於テ議案ノ審査ニ付キ必要ナル報告又ハ文書ヲ政
府ニ要求シタルトキハ政府ハ其祕密ニ涉ルモノ、外ハ其ノ求メ
ニ應セサルヘカラス

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議
會ニ向テ照會往復スルユトヲ得ス

〔解釋〕 各議院ハ國務大臣及政府委員ヲ除ク外他ノ府縣廳及府縣會
等ニ向テ照會往復スルコトヲ許サス是レ各議院ハ官廳及地方議
會ト聯合シテ政府ノ施政若クハ處置ニ對シ反對ヲ試ミルコトア
ラソコトヲ慮リタルナランカ

第十五章 退職及議員資格ノ異議

〔解釋〕 本章ハ議員資格ノ抵觸若クハ喪失ニ關スル事并ニ議員ノ資
格ニ付異議ノ生シタル場合ノ事ヲ規定セリ

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律

ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

〔解釋〕 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレタルトキハ其資格ノ牴觸ニ依リ衆議院ノ議員タル資格ハ之ヲ失ヒ退職者ト看做セリ(憲法第三十六條参照)又法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務即チ裁判官收稅官宮内官等ニ任セラレタル者(衆議院議員選舉法第九條及同第十二條参照)ハ議員タル資格ヲ失ヒタルヲ以テ退職者ト看做スナリ又其他ノ官吏ノ如キモ其奉職セル官務ニ依リ議員ト爲ルコトヲ得サルコトアリト雖モ是等ハ實事上ノ差支ニシテ法律ノ差支ニアラサレハ法律ニ於テハ當然退職者トハ看做サ、ルナリ

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

〔解釋〕 衆議院ノ議員ニシテ選舉法第三章及第四章ニ規定シタル事項ニ觸レ若シハ其要件ヲ缺キタルトキハ其資格ヲ失フヘキヲ以テ退職者トナスナリ

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

〔解釋〕 衆議院ニ於テ其議員ノ資格ニ付異議ヲ申立ツル者アルトキハ特ニ取調委員ヲ設ケ時日ヲ定メ充分ノ審査ヲ爲サシメタル上其報告ヲ得テ之ヲ議決スヘキモノトス是レ議員資格ノ得喪ニ關スル重大ナルコトナレハ輕忽ニ議決シ或ハ其權利ヲ害センコトヲ恐ルレハナリ茲ニ注意スヘキハ本條ハ議院開會後ニ異議ヲ生シタル場合ナルコト是ナリ其開會前ノ異議ノ事トハ衆議院議員選舉法第十二章ニ於テ當選訴訟ト題シ之ヲ規定セリ

「議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタル」トハ例ヘハ納稅資格ヲ有セサル
トガ滿三十歳ニ達セサルトガ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得
サル職務ニ就ケリトカ申立ツル者アリタル場合ヲ云フ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ
衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

〔解釋〕 裁判所ニ於テ既ニ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタル者ニ對シ
テハ議院ニ於テ其同一事件ニ付審査ヲ爲スコトヲ許サズ是レ議
院ノ議決ヲ以テ裁判ヲ變改スルノ恐レアレハナリ

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議
院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會
議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得
ス

〔解釋〕 議員ニシテ一度議會ニ列スル以上ハ正當ニ其資格ヲ得タル
モノト認定セサルヲ得ス故ニ議員ノ資格ニ付キ異議ノ申立ニ爲
ス者アルモ其無資格ナルコトヲ証明セラル、マテハ議院ニ列シ
且ツ發言ノ權利ヲ失ハサルナリ若其資格ニ付異議ノ申立ヲ受ケ
タル者ハ其自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ於テ其辯護ヲ爲スコト
ヲ得ヘシ蓋シ辯護ハ人ノ天賦ノ權利ナレハ如何ナル場合ト雖モ
之ヲ剝奪スルヲ得サルナリ然レモ其表決ノ數ニ預カルカ如キハ
自ラ裁判ヲ爲スト均シケレハ之ヲ許サ、ルナリ

第十六章 請暇辭職及補闕

〔解釋〕 「請暇」トハ議員ノ休職ヲ請願スルヲ云ヒ「辭職」トハ自ラ請フテ
其職ヲ退クヲ云フ又「補闕」トハ議員ノ辭職又ハ退職ニ依リ闕位ヲ
生シタルニ依リ之ヲ補フヲ云フ

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間に超エサル議員ノ請暇ヲ許可